

浅野誠

続・日常生活 食・住・エコロジー ・老・近隣

2010～2016

本書は、私のブログ「田舎暮らし・人生創造・浅野誠」（2013年2月まで）「沖縄南城・人生創造・浅野誠」（2013年2月以降）記事のなかから、「日常生活」「近隣」カテゴリーに入るものを集め、掲載年月日順に並べたものであるが、「日常生活」に収めきれなかった食・住・エコロジー・老・近隣などを収録したものである。

2017年5月



目次

食

p 6

オリオン・ビールがペールエイルを発売	2015年9月16日
私の食生活・料理	2014年12月12日~2015年1月13日
薬用酒づくり ビワ酒づくり	2014年3月27日
フィンランドのハーブ酒 私もやってみる	2013年12月3日
フロレンス・フェネルの収穫とワイン漬け（喉用に声楽家おすすめ）へ	2013年5月13日
我が家の浄水事情 ブラックシリカ浄水・活水器の設置	2013年5月12日
クワンソー酒、フーチバー酒を作る	2013年2月28日
かわしまよう子さん主催「雑草酵素を作る教室」 天空の茶屋にて	2012年7月1日
我が畑産野菜50%のサラダ ハーブ数種類入り	2011年3月22日
畑ののり	2011年2月24日
地域の味の消滅 日本酒と泡盛 私流と自然栽培	2011年2月13日
ドラゴンフルーツ、パッションフルーツ、ワインのデザート	2010年11月20日
自家生産自家焙煎コーヒーを飲む	2010年11月11日
我が家で収穫のコーヒー豆を、焙煎してみる	2010年11月10日
ビールよりノンアルコール飲料の方が美味しく感じる	2010年8月28日
モズク、100グラム38円とは安過ぎる	2010年8月27日
あずきキャンデー…最近の私のブーム	2010年8月24日

住 環境

p 20

我が家で聞こえる外からの音を並べる	2016年7月24日
田舎での家づくり・住宅取得への私のアドバイス	2016年1月20日
家電製品の修理取り換えの連続	2014年6月21日
衣食住のどれに金をかけるか 住を重視する私	2013年4月17日
強くて硬いセラカンバツで作ったウッドデッキも、通風がないと腐る	2013年3月14日
セラカンバツで作ったウッドデッキの塗装完了	2013年3月15日
ハウスクリーニング初体験	2012年10月31日
夏の訪問者 ヤモリがクーラーを壊す	2012年8月22日
クーラー取り付け顛末記	2011年6月19日

ヤモリにクーラーこわされる	2011年6月11日
ソーラー式の玄関灯を設置	2011年2月19日
玄関アプローチにアーチをつくる	2011年1月27日

エコロジー

p 30

我が家のエコロジー生活	2013年12月29日~2014年1月21日
-------------	------------------------

1. 屋上の太陽光発電とドラゴンフルーツ栽培
2. 日差しを防ぐ植物作戦 千年木 ブーゲンビリア シッサスなど
3. 土地造成をせずに、もともとの自然を可能な限り生かす
4. 私流自然農とコンポストで堆肥づくり
5. 食事 地産地消
6. 最大の悩みは、自動車が必需品である現状
7. 市販殺虫剤防虫剤を、ハーブによる防虫に切り替える
8. 30年前の服が活躍する衣生活

太陽光発電装置設置物語	2013年10月6日~11月21日
-------------	-------------------

1. 前史から導入へ
2. 設置工事完了
3. 発電開始
4. 初の電気量計算

年末年始 挨拶

p 40

年末年始通信	2016年12月31日
私の年替わりの挨拶	2016年1月1日
初日の出 今年のブログ	2015年1月1日
年末年始通信	2013年12月31日
2013年の私 研究テーマ、HP作成など	2013年1月9日
2011年振り返り 私の9大ニュース	2011年12月31日

加齢・老化と生活・老前整理

p 47

忘れ事 「おじいちゃん」とよばれても自分の事と気づかない 愉快的70歳の日々	2016年12月29日
老前整理としての預金の解約 10年前のハーブ販売総額は16000円だった	2016年12月25日
免許証更新 70歳として、老人として、人生を楽しむ	2016年10月6日

老前整理の難題 書籍・授業資料・研究資料の整理先	2016年9月4日
写真の整理は、老前整理の一つ 庭畑の10年の変化	2016年2月22日
老前整理 健康管理	2015年6月18日
岡崎武志「蔵書の苦しみ」光文社2013年を読む	2014年5月6日
ややこしい年金手続き 加給年金	2011年12月21日
65歳になると、介護保険被保険証・納付通知書が来る	2011年11月13日

近隣（中山）

p 55

国道331号線中山改良工事完成	2015年7月14日
アジアからの個人観光者が、このあたりでも増えた	2015年7月9日
中山の字共同作業	2014年12月7日
近隣発見散策シリーズ	2014年9月13日~11月4日
1. 明け方前の中山・サチバル・新原・太平洋	
2. 農家の畑 オクラ・ウリズン豆・バナナ・サトウキビ	
3. 海岸とイノーの多様な光景	
4. 中山 玉城 サチバル景観	
5. ガルガーの滝 旧道からの海岸景観	
6. 渡り鳥（アカハラダカカサシバか） ススキ林 犬訓練場	
7. 旧道 散策と近隣での発見	
8. イノーなど	
ジーハンタ 中山の4年に一回の行事	2014年9月24日
トーナチン	2014年6月5日
奥武島ハーリー	2014年6月1日
中山豊年祭	2014年5月20日
共同作業 近所の宴会	2014年5月12日
岸由二「流域地図」の作り方 川から地球を考える」筑摩書房2013年を読む	2014年1月21日
「流域地図」への一步 ビンガー下流	2014年1月23日
「流域地図」への一步 ビンガー中上流	2014年1月27日
歴史を感じる中山の石獅子5体	2013年12月1日
旧暦7月17日 後生（グソー）のウークイのウガン（御願）と獅子舞	2013年8月26日
中山国道トンネル工事見学	2013年12月25日
盛り上がる初の中山交流会	2012年11月26日
中山の綱引き	2012年8月12日
中山の豊年祭 中山人口の三つの山 10代・50代・70代	2012年5月28日
近所どうしのバーベキュー会 山の茶屋—天空の茶屋の散策	2012年5月6日

さとうきび収穫光景	2012年2月23日
カジマヤー祝い	2011年10月10日
大雨で海岸沿い農道と畑が冠水	2011年10月4日
大雨が玉城海岸に大河を作る	2011年10月4日
中山の綱引き	2011年7月25日
国道工事進行中	2011年4月24日
中山集落共同作業（アラバタ）——世間話も楽しい	2011年4月24日
水害対策と中山国道（331）工事	2011年3月7日
2009年3月までの中山（近隣の話）記事	2011年2月23日
かかし 本物の人間と間違えた	2011年1月23日
中山の山道 国道建設予定地	2011年1月2日
国道331、中山西から奥武入り口までの直線、開通	2010年12月13日
今朝の海岸ごみ拾い	2010年10月30日
ご近所と夕食会	2010年10月13日
中山国道工事物語	2010年9月28日~10月1日
巨木、岩を包み込み、割る	2010年9月26日
栞所を包み込む大木…中山ジーハンタ	2010年9月26日
今朝の海岸清掃は、釣り人ばかりで、最低の参加者数	2010年9月25日
でっかいバナナ…玉城焼でいただく	2010年8月18日
捨て犬・捨て猫に困る近隣	2010年8月7日

食

オリオン・ビールがペールエイルを発売

2015年9月16日

懐かしい言葉だ。海外に出かけた時にしばしば愛飲したペールエイル。味わい深いものだ。海外でビールを楽しんだ最初は、35年前のイギリスでのピター。そして、カナダでは、飲むビールの半分はペールエイルだった記憶だ。その後も、何度かのヨーロッパ訪問の際に楽しんだ。

対照的だが、日本のビールは味が淡泊か、濃いとしても辛いものが多かった。十数年前、キリンの一番搾りが出た時から、味わい深さから、これを選ぶことが多かった。

近年ブームの地ビールには、濃い味のものがあり、結構イケルと感じていたが、日常的に飲む機会があるわけではない。

ということで、今回のオリオンのペールエイル発売は大歓迎だ。早速購入して飲んでみた。「まあいける」という印象。通常のビールよりずっといいが、昔懐かしい味を思い起こさせるかという点、まだグッとこない。しばし飲みながら、確かめていきたい。

いずれにしろ、ビールの味への挑戦を大いに期待したい。暑い時にグイッと飲むだけのビールとか、第二・第三のビールで代用できるとかのレベルをはるかに超えるものを期待しているのだ。

もっとも、最近は飲酒量が激減しているので、どうせ飲むなら、味わい深いものにしたいと思うぐらいだ。



私の食生活・料理



2014年12月12日~2015年1月13日

1. 40年余り作り続けた朝の味噌汁

久しぶりに食生活について書こう。

まず、朝食、とくに味噌汁。結婚で共同生活をして満43年になるが、朝食だけは、私がほとんど作ってきた。恵美子が朝に弱かったこともあるし、朝食作りは比較的容易ということもある。

朝食の定番は、写真のように、ご飯（時々パン）、味噌汁、果物または生野菜、そしてヨーグルトだ。

写真は、今朝のものだが、昨晚の生野菜が残っていたので、果物とダブった。このスタイルは、ここ10年間変わらない。

一番凝るのは、味噌汁のだし。下写真のように、小魚・昆布・干し椎茸のスライスを水に浸けて20分余り。そして煮立たせてから数分して、汁にだしの色ははっきりでてきてから、具を入れる。具は、豆腐が不可欠。通常は、ゆしどうふ。今朝はなかったもので、島豆腐。そして、青野菜を1~2種類。大根葉、小松菜、サラダ菜、レタス類、モロヘイヤ、シマナ=カラシナ、ツルムラ、オクラ…。ほとんどが自家製。近隣からのいただきものもある。購入してきたものは少ない。



味噌は、宮古味噌。汁が出来上がってから、火を止めて入れる。宮古味噌を使って40年。他のものも使ってきたが、落ち着く先は、宮古味噌だ。宮古に出かけた時に買うとか、親戚からいただくとかして、ここ数年、我が家の冷蔵庫では常備品となっている。「宮古風」味噌というのを店頭で見かけるが、やはり違う。宮古の市場で、おばあちが自家製のものを売っているが、それを使うのだ。

この作り方の応用として、昼食や夕食に、魚汁、豚汁、鶏汁、雑炊なども作る。とりわけ魚汁は私の好物だ。切り身でもいいが、アラを使うと美味しい。これらの汁には、それらに合った具を入れるが、作り方はほぼ変わらない。

2. 10年近く作り続けるヨーグルト

40代のころに、牛乳を飲むと下痢気味になることに気づいた。飲まなければ、何も問題はない。その話を看護教育専門家に話したら、「カルシウム不足になるから、牛乳ではなくヨーグルトを飲んだらどうですか」といわれた。

それ以降、ヨーグルトを日常的に飲むようになった。



ここ玉城に住み始めたころ、親戚から自家製ヨーグルトを作っている話を聞いて、タネを譲ってもらったことが、自家製ヨーグルト作りのスタートだ。そのころ、カスピ海ヨーグルトとかが流行っていた。いただいたものは、どんなものかは、知らない。

それ以降作り続け、毎朝食べてきた。それだけだと、味が薄いので、少しだけジャムを乗せている。ここ数年は、ブルーベリー・ジャムに固定している。減ってくると、新鮮な牛乳を追加して、常温で一日余り置いておくだけで、新しいものができる。一週

間に牛乳パック一個分くらいのペースだ。それを10年近く繰り返してきた。だから、このヨーグルト菌は、我が家でまもなく10歳を迎えるというわけだ。

3、4年前に、フェイスブックの「お友達」が低温殺菌の牛乳がいいと書いていたことに触発されて、私も低温殺菌牛乳に切り替えた。味がよくなるし、できも格段によくなった。価格は高いが、いいものはいい。

写真の右側は、ヨーグルトになっているもので、その一部を左側の容器に入れ、低温殺菌牛乳を加えたところだ。

まったく手間暇がかからないので、長続きしている。この後も、ずっと続きそうだ。

3. 野菜シチュー

最近の私は、手の込んだものをつくることはない。時間をかけるにしても、せいぜい1時間だ。30分以上の時間をかけてつくるものに野菜主体のシチューがある。

24日晩に作ったものを紹介しよう。

材料

A カボチャ ニンジン ジャガイモ たまねぎ
トマト カボチャをたくさん入れて、他は少々。

B セロリ (我が畑製)

C パセリ チャービル (我が畑製)

D タマゴ (近所の放し飼いの卵を購入)

E 小魚 干し椎茸 コンブ (だし用)

F しょうが 塩コショウ ミリン コンソメ

G ヨーグルト (自家製) コリアンダーを加えることもあるが、今年は未収穫



以前は、鍋で30分以上煮込んでいたが、昨年からオールパンなるものを恵美子が愛用しているので、私も使う。時間短縮ができる。蒸気が出るようになったら、火を消し、しばらくしてまた火をつけるという繰り返し

をしながら、材料を加えていく。おおよそ50分ぐらいの時間を使う。

1. 材料Aを切る。あく取りが必要なものは、水に浸けておく。

2. 鍋に入れる。鍋にはあらかじめEを入れた水を入れておく。

3. Aが柔らかくなったところに、FとBを加える。

4. 再び煮込んでから、隠し味でGを入れ、Dをかき混ぜて加え、1分ほど煮る。

5. 皿に盛りつけて、Cを加える



私としては、いい味だと思う。恵美子も「おいしい」といってよろこんでいる。寒くなると、よくつくる料理だ。



4. 年越し料理

私が大晦日に作る料理は、30年余りの歴史がある。

1983年、研究のために埼玉に住んでいたころの話だ。年末だったか年始だったか、家族ドライブで秩父の山にでかけ、峠の茶屋めいたところで、食べたものがとても素朴で美味しかった。

その料理をまねたものだ。



まず、干し椎茸を時間をかけて、もどす。昆布と戻した干し椎茸を、鍋に入れて寝かしておく。

具を大きめに切る。大根。里芋。ニンジン。ゴボウ。こんにゃく。鶏肉。

鍋が煮立ってから、荷崩れや硬さなどを考えながら鍋に入れていく。

鍋は、具が柔らかくなったら火を止め、しばらく寝かしておく。30分ぐらいしたら、再び火をつける。10分ぐらいで消す。これを繰り返す。沸騰しているときは、具に味がしみないからだ。

味付けは、みりんと醤油を途中で入れる。私は、超薄味。

こんな風にして3時間以上かける。最後に青菜を入れたりする。

年越しそばは、日本そばにしている。沖縄そばも大好きなのだが、逆流性食道炎の薬を飲んでいるため、油分が強い沖縄そばを胃腸が受け付けられないからだ。

元日の朝は、私流のお雑煮。角もち、里芋、小松菜（我が畑で栽培）という、ごく普通のもの。

大晦日に作った煮つけは、2日ぐらいまで食べられる。

これが私の正月料理だ。

恵美子は、今年手打ちうどんをつくった。

5. 私の食生活・料理

今回で連載を終えるが、これまでに書かなかった私の食生活・料理のトピックをいくつか取り上げよう。

☆ 私の料理の最大の定番はとうふ。ゆし豆腐と島豆腐は、ほぼいつも台所にある。

朝はゆし豆腐。昼夜に島豆腐を使う。島豆腐は、チャンプルーと味噌汁の具に使うことが多いが、そのまま冷奴として食べることも多い。湯豆腐にすることもあるが、最近はめったにない。

☆ 鍋料理は、年に数回。水炊きが多いが、寄せ鍋もする。具は野菜や魚が中心だが、鶏を入れることもある。

☆ 汁物で好物は、魚汁。あら汁もある。大根や葉野菜を加える。だしは昆布

☆ 私は、肉が嫌いではないが、それほど食べない。恵美子は、宮古育ちで豚をよく食べる。引きずられて、私も食べる。ただし、油分を極力落とす。

逆流性食道炎で胃酸を抑える薬を飲んでい
るし、胆のうを除去したので、油分をとると、
消化できずに困ったことになるからだ。肉は、
鶏肉の油分が少ないものを取りことが多い。
魚は好物なので、よく食べる。さしみ、魚汁
などなど。卵は、一週間に2~3個ぐらい食べ
ているかな。動物性タンパク質は、このほかに
前に紹介した自家製ヨーグルトだ。



☆ できるだけ素材のまま食べることが多
い。味付けはしても、極力薄味にする。野菜
サラダにしても、私はドレッシングをかけず、
生のまま食べる。今が旬のルッコラ(写真 ベ
ランダコンテナのもの 他の野菜と混植)のよ
うに素材に味があるものと一緒にたべれば十
分だ。

野菜をおひたしにすることも多い。過剰に収穫した時はそうする。ゴーヤのまるかじりも好きだ。おやつ代わりに、ゴーヤを切らないで、そのまま食べることもある。無論、なかのワタは食べないが。

☆ 一人で食事をするときの定番は私流の雑炊。いつものダシを煮だし、大根や里芋類を少量煮込んでから、葉野菜をいれ、ご飯を入れる。煮立ったら火を消して味噌を入れる。卵をかけることもある。

☆ 最近、恵美子が料理に張り切っており、私の出番は減った。新しい料理にも挑戦している。私は「美味しい」「ありがとう」と話す専任になりつつある。

☆ パンは、フランスパン・雑穀パン・胚芽パン・クルミパンのような類が好きだ。食パンを食べるときは、トーストしたものに、何もつけずに食べる。それで美味しいと感じる。

☆ おやつは、黒糖・飴・パンなどだ。夕方授業を終えて自動車に戻り、車のなかに置いてある黒糖を食べると元気回復だ。それから運転して帰宅する。



薬用酒づくり ビワ酒づくり

2014年3月27日

クミスクチンが大繁殖しているのので、刈り取って乾燥させた。それに、これまでつくってあった枇杷葉、アロエ、サンニン（種・葉）、長命草、ハママーチの乾燥させたものを加えて、薬草酒をつくった。黒糖

も加えた。半年か1年後に楽しむことになりそうだ。

現在、半年前につくったものを味わっている。2ヶ月前に作ったフーチバー酒も楽しんでいる。飲酒量は少ないが、飲むならこれらのものだ。純粹の泡盛を飲むのは、来客だけになってしまった。飲む量が少ないので、泡盛は5~7年古酒になっている。

加えて、大量収穫した枇杷の実（下写真）の酒をつくる準備をしている。一か月前にはクワンソウ酒もつくった。

我が家は、古酒と薬草酒だらけだ。



フィンランドのハーブ酒 私もやってみる

2013年12月3日

フィンランドみやげで、写真のようなハーブ酒をいただく。早速味見する。日本でいうと、養命酒の味わいに近い。

効きそうなので、少しずつ嗜んでいこうと思う。

それなら、私も作ってみようと思う。とはいえ、今も、ヨモギ酒、クワンソウ酒をつくって楽しんでいる。そういう経験なら、1970年頃から始めたから、もう長い。といっても、果実酒が多かった。

ちょうど、煎じるための薬草茶が大量にあるので、それらを泡盛に浸けて寝かせておくことにした。1年ぐらいたてば、どんな味になるかを楽しみにしよう。味付けの意味もこめて、黒糖も入れてみた。今後試行



錯誤的実験を繰り返していこうと思う。

今回入れた薬草は、通常、私たちが薬草と呼んでいる10種ぐらいの我が家産のものだが、今後、通常ハーブと呼んでいるものでも試してみようか、と思う。ハーブ・薬草が過剰収穫気味になってきたこともある。



フロレンス・フェネルの収穫とワイン漬け（喉用に声楽家おすすめ）

2013年5月13日

1月に植えたフロレンス・フェネルが成長し過ぎていた。

恵美

子が、
声楽家
から、
フェン
ネル
（うい
きょう
イーチ
ョウバ
ー）酒



は喉に効き、風邪対策になるという話を聞く。声楽家らしく、葡萄酒につけるのだ、とのこと。インターネットサイトで探すと、

ホワイトリカー（焼酎）や泡盛に浸ける例が出てくるが。

そこで、さっそく収穫する。

フロレンスは、茎が太る特徴を持っているが、香などは普通のもので変わらない。

切ってみると、横から側芽が二つも出ているので、そのまま育てようと思う。

収穫したものは、よく洗って乾かす。この後、酒に浸ける。

我が家の浄水事情 ブラックシリカ浄水・活水器の設置

2013年5月12日



我が家は、水にいろいろとこだわってきた歴史がある。ここ3～4年間の中心作戦は、次の二つだ。

青色の容器に水を入れて、数時間、太陽光線に当てるという作戦。

私が、数年前の産業祭で購入してきたブラックシリカを容器に入れる作戦



ブラックシリカ作戦に恵美子に関心をもち、数日前、会社に直接電話して相談。ブラックシリカ入りの浄水器をいれることになる。

10日、社長さん自らがお出ましになって設置。もともと薬剤師の

方だ。

水道水はまず、写真右側のフィルターを通り、次に写真左側の大量のブラックシリカの中を通る。効果の実感はいまから始まるだろう。この器具は、個人宅だけでなく、那覇テラスやハーバービューにも設置したという、社長さんの話。少々値段が張るが、効果を考えれば、採算はとれるのではないかと、という判断だ。数々の特許がある。

近隣の交差点に水販売所があるが、ここがブラックシリカを使用しているのを、いまごろ気づいた。

多くの人がいろいろな工夫をなさっているが、素人の私には、まだ確かな判断はつかない。



クワンソー酒、フーチバー酒を作る

2013年2月28日

写真は、クワンソー、フーチバー（よもぎ）を浸けこんだ泡盛。

私が、果実や薬草などを泡盛・焼酎に浸けこんできた歴史は、もう40年を超す。そのころ広く見られた家ごとに梅酒を浸けこむ習慣が原型だ。私自身が最初に試みたのは、恵美子に出会う前の大学院生

時代だ。本屋で、NHK 講座のテキストだと記憶しているが、果実酒の作り方の本を見つけ、いろいろと試してみたのが始まりだ。

自分で楽しむだけでなく、付き合い始めた恵美子が風邪をひいたと言うので、レモン酒をプレゼントした記憶がある。恵美子の友達が、『変わった人だね』といったとかの話を後から聞いた。

沖縄に住み始めてからも、酒が焼酎から泡盛に変わっただけで、いろいろと試した。そのなかでも強いインパクトを受けたのは、どこでだか忘れたが、あるところでもいただいたフーチバー酒だ。古酒とは異なるが、古酒に匹敵する美味しさなのだ。それ以後長い間、はまっていた。

こんな経歴をもつが、ここ20年ほど、あまりしていなかった。3~4年前、クワンソーを栽培したが、使い道に困り、どこかで仕入れた情報をもとにクワンソー酒を作ったのが、久々のことだった。また、ここ2年余りは、酒を飲むこと自体が極度に少なくなり、我が家の酒がすべて古酒状態になるほどだった。

だが、昨秋から少しずつ飲み始めた。といっても、以前の数分の1程度だが。そこで、再びクワンソー酒とフーチバー酒を作ったというわけだ。10種ぐらい栽培している薬草の、薬草茶以外の利用方法を探しているが、

薬用酒を作るのが一番簡単なので、他にもいくつか浸けこむことを検討している。



かわしまよう子さん主催「雑草酵素を作る教室」 天空の茶屋にて

2012年7月1日

29日、山の茶屋・浜辺の茶屋・天空の茶屋オーナーの稲福さんからの案内を受けて、参加。

ハーブや薬草を使ってはいるが、雑草を使うと

言うことは、これまで考えていなかったもので、私の植物とのつきあいレポトリをふやせることを願って、参加。

10名の参加者で、私は最年長、かつただ一人の男だった。

会場へは徒歩で赴いた。1900歩15分の距離。このあたりは、私の散策コースの範囲だ。他の方は、名護の方を含めて、あちこちから車でいらっしやった。地元の方のお二人おられた。

まず、参加者の相互紹介のあと、基本的な知識をいただき、早速雑草集め。

一つ一つ手にとって、使える草、毒草を教えていただいた。上写真は収集シーン

天空の茶屋からサチバル庭園を下りながら、山の茶屋をとおり、サチバルの浜辺まで行く。そして再び天空の茶屋まで戻る道。

途中で、かわしまさんが、皆さんの収集具合を重さでチェック。私はあと、200~300グラムとのことで、励んだ。到着して、体重計で測定。一人平均700グラムあまり。私は1.4キロと取り過ぎだ。

採った草の名を並べよう。

ホソバハリフタバムグラ タイワンハチジョウナ

オオバコ タンポポ ヨモギ アキノノゲシ

ツボクサ カタバミ オニタビラコ

チヂミザサ カニグサ ツユクサ

アワユキセンダングサ (サシグサ) クワ

キダチコミカンソウ カラムシ ドクダミ ツワブキ コマツヨイグサ ハマゴウ

ゲンバイヒル

ガオ クサトベラ

アメリカハマグルマ



次に、土や虫を落とす程度に洗う。さらに、10センチ大にカット。

皆のものを一つに集めて、皆でかき混ぜる。協力してわいわいやると、植物もいい気分になり、いいものができるとのこと。

それを分けて、各自のバケツで、三温糖と混ぜる。力任せにやるのではなく、植物を痛めないようにしつつ、砂糖が植物にまんべんなくくっつくようにやる。

これを持って帰り、毎日かき混ぜ、一週間ぐらいで完成するとのこと。

我が畑産野菜50%のサラダ ハーブ数種類入り

2011年3月22日

このサラダに入っているもの

我が畑産

ボリジ ルッコラ チャービル パセリ イタリアンパセリ ミニトマト セロリ サラダ菜

レタスの仲間

ボリジは初挑戦



購入してきたもの

キャベツ たまねぎ トマト サラダ用豆類（缶詰） ツナ

楽しく食べた

こんなシリーズのサラダが1～2ヶ月続きそうだ

畑ののり

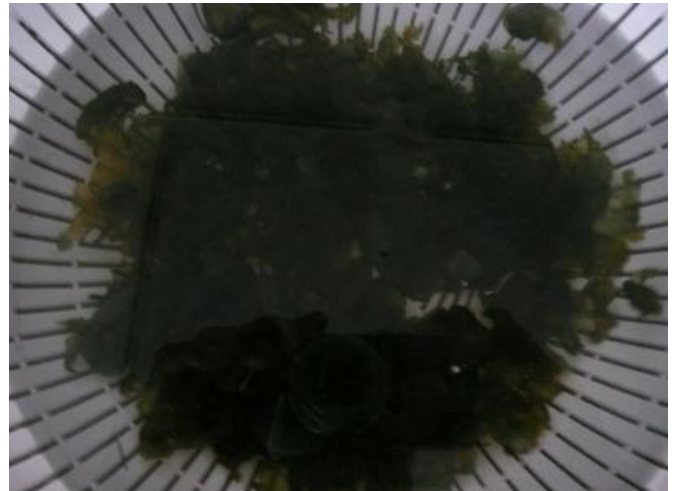
2011年2月24日

我が家の前の駐車場に、いっぱい出てきた。雨上がりの月曜日の午前撮影。

恵美子は、小さい時に「畑ののり」と言って、食べていたそうだ。

以前にも、恵美子が洗って、食卓に出したことがある。今回も洗って、食べる準備だ。ゴミを取るのが大変だ。

正式名称が不明。インターネットでも調べがつかなかった。



地域の味の消滅 日本酒と泡盛 私流と自然栽培

2011年2月13日

河名秀郎「日と水と土」花書院2007年には、こんな記述がある。

「以前、日本酒の利き酒の品評委員が「最近の日本酒は昔と比べて地域による味の差がなくなってきた」というコメントを聞いたことがあります。これも限られた種菌メーカーが酵母菌の純粋培養を行なっているために、日本全国同じような味になってしまっているのでしょう。

野菜でいえば、大根は青首、トマトなら桃太郎といったように全国的に均一になっていることと同じ現象です。私たちは、これらの風潮に危惧を覚えています。なぜなら、

- 一、その地域特性が失われていく。
- 二、菌や種子を操作することで自然界に存在しない菌や種子が造られていく。
- 三、アレルギーや化学物質過敏症の人たちをはじめ、その素材を口にできないという深刻な問題が起きている。」

P38

なるほどと思う。

その点では、沖縄は地域独自の味がまだ残っている方だろう。それが一つの魅力になっているともいえる。

ところが、スーパー店頭に並ぶ野菜を見ると、沖縄独自のものより、全国共通のものが多い。特に冬場などは、沖縄独自の野菜は少ない。

それだけではない。泡盛にしても、醸造元の独自性が薄れてきている。私が泡盛を楽しみ始めた一九七〇年代前半は、醸造元の個性が鮮明だった。「クセ」があったのだ。四合瓶をあけて、最初に少量を捨てる人が結構いた。「クセ」がありすぎるのだろう。

そのころ、ほぼ全琉の酒を味わった私は、味で醸造元をほぼ当てることができた。

しかし、八〇年代に入ると、「クセ」、「個性」が薄くなり、当てることが難しくなった。醸造元相互に融通しあう例も増えてきた。マイルドな味、均質な味を目指した酒造りもすすんだ。だから、「個性」が好きな私は、離島の酒、たとえば伊平屋の「照島」などを愛飲した。



泡盛をほぼ卒業した今では、もっと味が分からなくなっている事だろう。

個性的な味、手造り味が増えて行くことを期待したい。そのためには、大量生産型から卒業していくことが求められる。そして、大量生産を推進するような流通システムを変えていく必要があるだろう。

ドラゴンフルーツ、パッションフルーツ、ワインのデザート 2010年11月20日

ワインはもちろん違うが、他の二つは我が家産。ドラゴンは今年最終段階。パッションは今秋の第一号。パッションの酸味、ドラゴンの甘味にワインの甘酸味が、うまからんで美味。

自家生産自家焙煎コーヒーを飲む 2010年11月11日

ちゃんとコーヒーになっている。味もそこそこ。

何年もかけて腕を磨こう





我が家で収穫のコーヒー豆を焙煎

2010年
11月10日

先日収穫した
数十粒の豆の皮



をむいた。左側は、むいた皮。 右写真は焙煎完了 いいにおいが漂う
1, 2日熟させた方がいいというので、試飲はまだだ。

ビールよりノンアルコール飲料の方が美味しく感じる 2010年8月28日

息子家族来訪に合わせて、ビールとノンアルコール飲料とを1ケース、つまり24缶ずつ購入した。

息子たちが帰ると、突然の酒好き来客以外にビールを飲む人がいない。私たちはビールを飲まない。昨年の夏まで、私は夏になると、ビールを平均すれば一日1缶飲んでしたが、いまやそれがノンアルコール飲料に代わってしまった。恵美子もノンアルコール飲料が美味しいと言って飲む。

だから、この方は在庫切れが近づいているが、ビールの方は在庫豊富状態が続いている。

息子が来た時、久しぶりにオリオンビールを飲んだが、ノンアルコール飲料より美味しくないと感じる。昔は好きだったが。ビール党の人、とくにオリオンファンの人には叱られそうだが、実際そう感じるのだ。

ノンアルコール飲料は、アルコール分がないだけに、味を出そうと努力した結果があらわれているような感じもする。

それにしても、ビールだけでなく泡盛の飲酒も激減してしまった。一カ月に3~4合といったところだろうか。それだけストレスが減ったのだろうと思う。今、ノンアルコール飲料を飲むのは、畑仕事や卓球練習の後だ。

モズク、100グラム38円とは安過ぎる

2010年8月27日

生産过剩のようだが、漁業者にとっては深刻だろう。Aコープで購入。
もずくは、週に3~4回食べる



あずきキャンデー…最近の私のブーム

2010年8月24日

この夏にはいったころからはまっている。子どものころの思い出もある。

畑仕事後に、一本楽しむ。冷蔵庫には常備している。

甘くて冷たくて歯ごたえがあるのがいい。



住 環境

我が家で聞こえる外からの音を並べる

2016年7月24日

ふと、我が家で聞こえるのは何の音かと思い起こしてみた。並べてみよう。

自然音

1) 海 波が立たないほど静かな時は別にして、海の音は、日常的に聞こえてくる。多様で沢山のザワザワが集まって濃縮した音。台風が近づくと、激しい音になる。海鳴りだ。直線距離にして海岸まで200メートルだから当然。ただし、激しい音が出るリーフまでは、500メートル以上ある。

2) 風 たいていは風速5メートル以上の風があるので、木々が擦れる音を中心にザワワの音だ。サトウキビ畑のザワワの音も聞こえる。ビュービューするのは、台風時を含めて年に10回余りだ。

雨の音は、静かな時もあれば、激しい時も様々。雨の音は、他の音を消す役割も果たす。

3) 虫の声。夏の昼間で派手なのはセミ。夜になると、沢山の種類の音で氾濫する。「虫の音」だ。時にはヤール（ヤモリ）の鳴き声も聞こえる。

4) 鳥の声。昼間、とくに朝夕の主役だ。朝は、その声で目覚めることもある。夕方になると、鳥類ではなく哺乳類だが、ギャーギャーいうこうもりの声も聞こえる。最近の夕方は、カラスの声も聞こえて、興ざめだ。一番多いのは、イソヒヨドリ。風情があって印象的なのはウグイスだが、春とは限らない。ハヤブサの声も聞こえる。稀だが、ポーポーというオオボートの鳴き声も聞こえる。

5) 動物の声。100メートルぐらい離れた牛小屋から、餌をねだる牛の声を聴くこともある。数百メートル離れた犬の訓練場から、風向き次第では犬の鳴き声が聞こえる。近くの飼い犬が吠える声を聴くこともある。猫の声は滅多に聞かない。

人工音

1) 一番よく聞こえるのは、公民館からの放送。一日1~2回ほど。そのうち字からの連絡は、数日に一回。ほとんどが市からの連絡。夏休みに入ると、小学生たちの音読の放送が、朝6時40分から定番になる。朝7時と夕6時には、時刻を知らせる放送。

我が家は、私たちが住む中山の放送だけでなく、奥武、玉城の放送もよく聞こえる。風向きによっては、百名、志堅原、富里の放送も聞こえる。まれに隣の八重瀬町の港川の放送まで聞こえる。

2) 近所で、畑作業・建築作業中の人々が聞いているラジオ放送が聞こえることもある。

3) ここは、大きな道路から離れているので、自動車の音が聞こえることは多くない。聞こえてもバスやトラックなど大型車が中心だ。小型車で聞こえるのは、元気がありすぎる運転のものだ。一日に一回ぐらいは、救急車・消防車・パトカーの音が聞こえるかな。

空から飛行機の音が聞こえるのは、ここの特徴か。那覇空港への進入経路に当たるが、南風の時に、空港をとび

たって、糸満あたりを旋回して北上し高度を上げるためにエンジンをふかしている飛行機の音は聞えることが多いが、小さな音だ。しかし、米軍のステルス型戦闘機が、洋上訓練の往復に放つ音は、すさまじい音だ。米軍・警察などのヘリコプターも時々聞こえる。パラモーター（エンジン付きパラグライダー）が近くを飛んだことがあるが、最近は見ない。これはうるさい。

4) 近くの工事から出る音が聞こえることもある。道路工事が多いが、それほど多くはない。草刈機の音は、結構聞こえる。近くの畑で、水撒き用のポンプの音が聞こえるときもある。

5) 綱引きやエイサーなどの地域行事の音。夏場の風物詩とでもいえそうだ。鐘太鼓が雰囲気を出す。

6) 選挙時には、結構選挙カーの音が聞こえる。「サオダケ」などの営業で音を出す車が来るのは稀だ。交通安全などの広報カーは、それなりに来る。

7) 人の声は、ほとんど聞こえない。

田舎での家づくり・住宅取得への私のアドバイス 2016年1月20日

以前ほどではないが、時々土地探し、家づくり・購入の相談に乗ることがある。そんな時に、私が話すことをいくつか並べよう。

1) 人付き合いができる位置

我が家周辺を探す人には、まずは景観の良さを期待することが多い。私たちもそうだった。「海が見える家」である。

だけど、ポツンと自然のなかにあるだけでは、片手落ちだ。自然とともに人々ともつながりながら暮らすことを大切にしたい。近隣の人々、地域の人々と親しくつきあうことができるようなところに住みたい。

その点では、共同で家をつくるということがあってもよい、と思う。私もその可能性を探ったが、残念ながら見つからなかった。その点では、共同住宅は都合がいい。しかし、現実には、アパート・マンションには、隣近所との付き合いをしなくてもいい都会的暮らしを求める人が多い。最近、隣近所との付き合いを大切にしている集合住宅を見つけて、嬉しく思う。沖縄には、そうしたところが結構ありそうだ。沖縄的人間関係を大切にする住宅だ。

2) 中古住宅にも、眼を向ける。

最近、建築費の高騰がすさまじい。建築関係で仕事している知人の話では、単価が倍近くになっているという。坪50万円ほどが、100万円に近づいているらしい。それに、工期遅れが著しい。

そんななかで、中古住宅に目を向けたらどうか。中古物件は、20年もたつと、建物代金は、限りなくゼロに近づいて、土地代金プラスアルファぐらいで購入できる。しかも、実際に現場を見れば、その場所がしっかりしているかどうか、住み心地はどうか、などがわかりやすい。土地造成や建築に「手抜き」がなかったかどうかもわかりやすい。

なお建築後30年以上になっているものは、古い建築基準法によるので、耐震などで、少々心配があるかもしれないが。

古民家ブームもあるし。

3) 土地造成

これも、建築家というか土木専門の方に聞いた話だが、土地造成をしたところは、土地を削ったり埋めたりしているので、原型がわからず、多少の心配があるということだ。それに造成費がプラスされて、土地代金が高くなっている。我が家近辺でいうと、坪7万円のところが、10万円になるという具合だ。

景観がいいところは傾斜地に多いが、そこに新規に立てる場合、ボーリングによる地質調査が必要になる。そして、場合によっては、パイル打ちとか、擁壁づくりに、想定外の経費がかかることが多い。それをしなくてすんだ私たちはとても幸運だった。

4) 出来るだけ、自然を残す

これは、私たちの好みのことだ。もともとの自然を可能な限り残したい。我が家は、建物を立てる場以外の敷地は、自然のままにした。建物敷地にあったクロキなども工事前に移植してもらった。

人によっては、地面にコンクリートをはり、境界に高いブロック塀を積むことがある。都市なら、それが必要かもしれないが、都市にしても、景観的にも気分的にも、いかに緑をつくるかを大切にしたい。住むところが、できるだけ自然と一体になることを願いたい。

なかには、虫が嫌いという人もいようが、自然とともに暮らすなら、動植物と一緒に暮らすのだ、という喜びと言うか覚悟がほしい。我が家には、ヤモリ、クモ、イソヒヨドリ、スズメ、鳩など、いろいろな生き物が住んでいる。

家電製品の修理取り換えの連続 2014年6月21日

我が家もいよいよ10年だが、この一か月は、家電製品などの修理取り換えて、てんやわんやだし、お金がかかる。

一覧表にしてしまった。

ボイラー	ゴキブリ侵入で停止	無料サービス
水洗トイレ	パッキングゴムの劣化など	1万円余り
レンジ	修理	1万円余り
クーラー 1台	パイプ漏れ 修理	無料サービス
クーラー1台	いろいろと調べるも、結局は買い替え	20万円近く
テレビアンテナのブースター	買い替え	3万円

修理にも、いろいろなタイプがある。ほとんどは、家電修理専門の加藤さん。いつもお世話になっているのに、少額の支払いで恐縮している。半ば「友達」状態。ていーだブログ仲間だ。

メーカーによっては、直接施工を原則として、他業者にさせないところもある。メーカーに頼むと、加藤さん

の2～3倍かかる。

家電製品は、今や修理というよりは、部品取替えの時代。部品取り換えよりは本体取り換えの方が安いことも多い。

次に予測・予定・覚悟しているのは、プリンター。現在のも、修繕よりも買い替えが安いというので、そうなった。現在のも動いているが、スキャナーなどが機能しない。ということで、インクがなくなったら、買い替えだ。

大きいのは、自動車。数箇所部品取替えが必要になっている。しかし、ヒュンダイなので、取り換えに少々苦勞する。取り換えなくても、支障がない箇所なので、しばし我慢している。カーナビなどは、位置を正確に示す確率は、40%。時々海上を走っていることがある。

次の自動車は、年齢を考えると、多分最後の購入になるだろう。ここ30年、即断、人任せで購入してきたので、最後だけは、自分でじっくり選択判断しようと思う。今年に入ってから、いろいろと研究中。販売店を回って学習中だ。

衣食住のどれに金をかけるか 住を重視する私 2013年4月17日

先週の沖縄県立看護大学の授業で、「自己紹介・他者発見ビンゴゲーム（人生創造バージョン）」をしたが、そのなかの一つのマス「衣食住のどれに金をかけるかで異なる」がちょっと話題になった。

学生たちは圧倒的に、食のようだ。住はめったにいなさそうだ。

対照的に、私は、少数派の住だ。三つの比率で言うと、衣=1、食=3、住=6といった感じだ。

衣は、23年以上前の沖縄時代のものがまだ何着も残っている。きちんとつくられたものは、まだ着ることができる。それ以降太って着られないままだったものが、スリムになって再び着ようになったこともある。ほぼ30年以上前のクールビズを今でも着ている。10～23年前の愛知時代の冬着もたくさん残っている。沖縄に住み始めたので、着る機会が激減したためだ。カナダ時代のものも残っている。

なかなか捨てきれない私だが、服が二カ所以上、穴があいたり、擦り切れたりしたら、捨てる決意で、衣服を減らす方向で頑張っている。下着は別にして、新しいものは、年に2～3着しか購入しない。だから、年間衣服日は1～2万円ほどか。この2年間で購入したのは、生まれて初めてのジーパン1着しか記憶にない。

食も重視するが、金をあまりかけない。レストランなどでの外食は、週に1～2回ぐらいか。先週は、看護大学食堂で450円の昼食。琉球大学授業帰りに与那原東浜で850円の昼食。

家で食べることが圧倒的に多い。スーパーで買う材料に、家庭菜園の野菜が加わる。食を軽視しているわけではなく、気をつかっているが、私流は、できるだけ材料そのままに近い食べ方を好む。たとえば、野菜サラダにドレッシングをかけることは少ない。

こんな具合で、一人当たりになると、月2～3万円か。年換算で、30万になるのだろうか。

住は、現在の家を新築した時にお金をかけたので、今は維持費が中心だが、維持に必要なことを、建築士さんと相談しながら進めている。10万円以上かかることを、2～3年に一回はしている。他には、クーラー修理などが結構ある。ヤモリにやられることがしばしばだ。一番大きい費用は、固定資産税だ。

我が家の流儀は、周りの自然を生かし、それらと調和していくことが基本だ。庭畑もそのやり方なので、ほぼすべて私自身の手作業だ。苗種堆肥などを結構購入するが、年間経費は数万円にもならないだろう。

都市に住んでいる人とは、随分異なる生活だろう。私たちは、愛知に住んでいる時も、かなりこれに近い生活だった。6～7年前、テレビ番組「二人で月10万円で暮らせる町・村」に出たが、その時と変化はない。

強くて硬いセランカンバツで作ったウッドデッキも、通風がないと腐る

2013年3月14日

我が家一階ベランダを、5年ほど前にウッドデッキにした。材料は、強くて硬いセランカンバツだ。タマグスクに上って行く階段にも使われている。大神島の山を登る階段にも使われている。風雨にさらされても大丈夫ということだろう。

ところが、1月ごろ、ウッドデッキ一カ所が腐って穴が開いた。

そこで、我が家を設計監理した建築士さんに相談をした。いろいろと探してくれて、そうした風雨にも強い塗装について検討してくれた。

ということで、3月9日～10日に工事が入った。上は、工事前光景。つまりビフォーだ。まず、板をはがす作業。はがす作業が大変。ビスを取り外すのに大苦勞。設置した時も、大変だった。はがしてみると、下の板は、ところどころ白カビがぎっしりで腐り始めた。



こうした個所は、取り換えが必要。といっても、セランカンバツを探すのに苦勞。いくつかの木材店にあたってようやく入手。

セランカンバツは強力だが、通風がないともろいことがはっきりした。柵板をぎっしりとつめて配置したのだから、通風が極度に悪く、腐った事がはっきりした。

工事の結果、どうよみがえったかは、次回にしよう。

セランカンバツで作ったウッドデッキの塗装完了 2013年3月15日

作業は、いくつもの工程が必要。

はがした柵板などにグラインダーをかけて、きれいにする。そこに、ルツソ・プレミルコートという塗料を2回塗りする。この塗料は、アクリルウレタンとシリカのハイブリッドのもので、沖縄では最新式だ。

他方で下板の腐った個所の取り換えをする。手すりや階段部分は、取り外しをせず、そのままグラインダーをかけて、塗料の2回塗り。その間、シッサスやブーゲンビリアを引っ張って、作業ができるようにする手間も必要。

最後に、ビスで板を止める。これも硬いセランカンバツなので大変。

ついでに、庭のベンチの腐った部分の修復をしてもらった。

ということで、10日の夜8時近くに完了。職人さんたちがよく働いてくれた。

翌日11日に撮影したのが、右の写真



この塗料は強力なので、最近公共の建物にも使用され始めているとのこと。半永久的に有効なようだ。

今回もそうだが、住宅の維持管理はなにかと必要なことが多い。それで、50年とはいわず100年持つてほしいと思う。



ハウスクリーニング初体験

2012年10月31日

ハウスクリーニングという企業があることは知って



いたが、マンションなどで退居等の際に活躍しているぐらいの認識しかなかった。最近、テレビ報道で、一般家庭でも活躍し始めたことを知った。そんな時、私のこのブログに、クリーンプラネットという企業からの「あしあと」が記された。

逆訪問してみると、ハウスクリーニング業だという。しかも、社長さんは宮古出身だという。メールをしてみた。そこからはじまって、社長さんに来宅してもらい、説明と仮の見積もりをしてもらった。

そのなかで、私たちが必要だと思っていた、キッチンのレンジ周辺、3階・1階のサッシ周辺、3階テラス周辺のクリーニングをお願いした。

27日、朝から三人の方がお見えになって、作業開始。女性の方だろうと推理していたが、男性3名。3ヶ所に分かれて、どんどん進む。やり方は徹底している。私がする窓ガラス拭きとはレベルが全く異なる。夕方5時30分までの大奮闘だ。

汚れが目立っていたガスレンジなどは、買い替えようか、と思うほどだったが、新品に近い状態だ。3階テラスの薄汚くなっていた壁などは、すっきりときれいになった。

透明度が回復した窓ガラスは、鳥がガラスの存在に気付かず、ぶつかるのではないかと心配するほどだ。実



は、この家の新築のころ、しばしば衝突したのだ。



最後

に記念撮影。

これだけの重作業なのに、値段はとてもリーズナブル。他の場所でも活躍していただこうか、と夫婦会話。

家はメンテナンスが重要だ。高齢期に入りつつある私たちは、こうしたことをさらに活用しなくてはならないだろう。お金との相談もあるが。

夏の訪問者 ヤモリがクーラーを壊す

2012年8月22日



このところ、訪問者が多い。

21日、名古屋から来客。数年ぶりの再会。定年退職後、大学非常勤と趣味？の研究生活、旅など、とのこと。元気とゆとりを感じる。近くの御嶽・グスクをいっぱい案内する。

数日前には、10年近くお会いしていない旧友からの電話。来春、もう一人の旧友と一緒に来沖する計画。

10数年前の卒業生が、ブログで私を見つけて、来週訪問とのこと。

なぜか、8月下旬は来客が多い。

客というわけではないが、印刷屋さんの訪問。そして、クーラー修理の加藤さんの訪問。

偶然とはすごいものだ。クーラー修理中に、別のクーラーもストップした。早速、加藤さんに調べてもらった。ヤモリが侵入して感電して、基板を破壊したのだ。

写真上部にヤモリがいるときに、私がクーラーのスイッチを入れて、ヤモリが感電死し、基板がショートして、黒く焦げたようだ。

我が家には、大量のヤモリが住んでいるので、仕方がない。

それにしても、この家での生活は、9月には満8年になるので、いろいろな器具機械が修繕を求めてくる。やむを得ないと覚悟しなければならない。想定外のかんりの出費だが。

22日は、ウォッシュレット修繕担当者が訪問する予定だ。

クーラー取り付け顛末記

2011年6月19日

先週の記事で、ヤモリにやられたクーラーのことを書いた。

その後、いろんな経緯を経て、量販店にクーラーを取りつけてもらうことになった。

すぐに工事が始まるが、うまくいかないとのこと。配管が建物のなかに隠されていて、どうやってやったらいいかが分からないという。

そこで、建物設計士及び、最初のクーラー取り付け業者に連絡。そちらから量販店の工事担当者に話してもらう。

だが、うまくいかず、量販店のものは断念することになった。



急ぐものだから、最初のクーラー取り付け業者のかたに取りつけてもらうことになった。

18日、写真のように、その工事が完了。

写真で分かるように、配管が外には出ていない。

配管が外にあると邪魔物がある感じだし、美観上よくないということで、設計士が、建物の中に配管を入れるように指示する事が多いという。

新築の時はいいが、今回のように、取り替える時は、大変のようだ。

だが、顔なじみの最初のクーラー取り付け業者さんは慣れているようだ。

建物の壁の中にある配管はそのまま活用して、新たなクーラーを取りつけるというわけだ。配管をガス溶接する工事が必要だが。

1時間ぐらいの工事で完了。ほっとする。

ヤモリにクーラーこわされる 2011年6月11日

6月末に民泊高校生がくる。きかなくなったクーラーを修理しなくてはならない。

南城市内のティーダブログでたびたび登場する加藤さんに電話。ブログ記事通り、すぐにいらっしゃる。

室外機のふたをあけてみると、やもりのミイラが2匹。クモのミイラも発見。かれらの活躍で、クーラーが機能しなくなったのだ。 ※ 写真中央にヤモリ一匹の頭蓋骨が写っている。

基盤交換が必要だが、メーカーに尋ねると、2万円もする。8年前製造の機会だから、備品交換より新品購入のほうがいいのではないかとおすすめ、さらに販売店にも尋ねて下さる。

今や、取り付け、旧機撤去までふくめて、新品の代金は4万円余り。どう考えても、取り換えの方が有利。

ということになった。だから、加藤さんのお仕事は、無料サービスとなってしまった。大変ありがたい話だ。

ブログつながりの楽しさを感じた。



ソーラー式の玄関灯を設置 2011年2月19日

我が家入り口の夜間照明灯がつかなくなったので、いろいろと考えた末、先日、ソーラーライトを購入して取り付けた。

写真は、フラッシュなしで、夕方7時ころ撮影。

20年前、愛知にいるころ、つけた経験があるが、ほんの1～2時間だけ、わずかに点灯しただけだったので、期待していなかった。

つけてみて驚いた。かなり明るい。通常の電灯ほどでないが、周辺を一応は明るくしてくれるのだ。



ソーラーパネルの技術が向上したのと、LEDが取り付けられているためだ、と推定する。

ついでに書こう。ここに移ってきた時、太陽光発電も検討したが、全く採算が合わないので、やめてきた。専門業者だって、月に電気を3万円以上使用する家庭なら検討対象だろうと言っていた。我が家のように1万円は対象外のようなのだ。

最近、再びブームになり、営業マンが訪問することもしばしばだ。かつ買電とか補助金があるので、少しは現実性を帯びてきたかなと思って、先日専門家に相談したら、まだそういう段階ではなさそうだ。大量に電気を使うとか、採算を度外視して、「エコ」追求をするとか、という類いのようなのだ。

玄関アプローチにアーチをつくる 2011年1月27日

日曜日、半日かけて作業した。

これまで、パッションフルーツとオオバナアリアケカズラが、橋の手すりをおおっていた。ややおおい過ぎの感じさえしたので、おもいきってカットする。パッションフルーツは、実をつけたツルに実をつけないので、ツルを大胆にカットした。サボテンが4メートルを超して、支えをもっと高くする必要がある。

そこで、橋の上にアーチを作ることにした。畑の棚を作るためのパイプが畑面積縮小で余ったので、それを使うことにした。なんとか格好の付くものになった。

まずは、サボテンをひもで縛った。そして、オオバナアリアケカズラのツルをアーチに絡めた。パッションフルーツが、4～5月になって、はって登ってくるようになれば、オオバナアリアケカズラを多少カットするつもりだ。

橋の両側には、ふうりんぶっそうげ、二段花ハイビスカスが高くなってきた。台湾レンギョウも高くなってきた。大きくなってほしいのは、トックリヤシモドキだ。昨年、虫に食われて成長が遅くなったが、木酢液をかけて退治し、順調な成長に戻った。それにしても、1年に20センチ余りしか伸びず、ごゆっくりだ。あと2、3年もすれば、目立つようになるだろう。いまは数センチしか幹を見せていないが、5年もすれば、立派な幹が見えるようになることを期待している。

庭の樹木も、これまではどんどん大きくするだけだったが、そろそろ限界まで来たものについては、強く剪定して、高さを抑える作業が必要になってきた。



エコロジー

我が家のエコロジー生活 2013年12月29日~2014年1月21日

1. 屋上の太陽光発電とドラゴンフルーツ栽培

これから、10回近く、我が家のエコロジー生活を紹介していこうと思う。

まず屋上に降り注ぐ太陽光線などから建物を守り、断熱をはかることと、太陽光を活用する一挙両得の考えだ。

ドラゴンフルーツは隣家からいただいたものを、最初は地植えにしていたが、成長が悪く、なかなか収穫にまで至らない。粘土質のためもあるろうし、他の樹木に太陽光が遮られるためもあるだろうと思い、思い切って屋上に巨大鉢を置いて育てるようにしたのは、数年前だ。土は、砂と堆肥などを混ぜたものを使用した。

効果てきめんだった。5月末から10月終わりまでつぎつぎと収穫できるようになった。そこで、鉢を増やし、現在10数個で育てている。昨年の台風による潮風の打撃、今年の3ヶ月にわたる雨なし状態の影響はあったが、それでも結構な収穫がある。何もなければ、100個近い収穫となるはずだ。

ドラゴンフルーツにも種類があるが、我が家のものは、甘さバツグンで、中身も赤いものだ。



太陽光発電は、以前から関心を持っていたが、今年ようやく決意して設置した。かなりの節電になりそうだ。

太陽光パネルとドラゴンフルーツの鉢で、屋上をほぼ全域おおったので、断熱効果もありそうだ。夏場は2度ぐらい下がるだろうと言われている。まだ夏を経験していないので、確定的には言えないが。

2. 日差しを防ぐ植物作戦 千年木 ブーゲンビリア シッサスなど

我が家は、南南西向きの建物配置であり、3~10月という長期にわたって、部屋の中に差し込む夕陽を防ぐことが大きなテーマとなる。斜めに差し込む夕方だけでなく、上から差し込む真昼間でもかなりの遮蔽が必要だ。

まぶしさを遮るだけでなく、冷房経費対策、光線による機器・家具の劣化対策などと、いろいろと必要だ。

いろいろな試行錯誤を経て、植物による作戦に絞られてきた。そして9年余りたって、6~7割の遮蔽に成功しつつある。

1) 3階ベランダの西側に、鉢植え千年木を置く。現在、1~3・5メートルの高さのものが50本ほど並ぶ。難点は、風速40メートル以上だと、倒れたり折れたりする確率が数%以上となることだ。



2) 同様のことは、4階でもしているが、現在進行中。

3) 地上に植えたブーゲンビリアをどんどん上に伸ばして、現在高さ10メートルを超し、先端は4階平面に達しようとしている。ここ3年間ほど、台風などの影響もあり、上に伸びることが止まっている。あと1~2メートル伸びるとありがたいが。そうすれば、3階4階の千年木・シッサス、さらには屋上のドラゴンフルーツとつながりあい、完成となる。



4) 地上から伸びたシッサスが、ぐんぐん伸びて、ブーゲンビリアを超す勢いだ。知らぬうちに4階ベランダの鉢からも、芽が出てきて広がり始めている。

5) シッサスの枝に絡みつく形で、3階ベランダ鉢からのジャスミン・マツリカ、地上からのアサヒカズラ、さらにはパッションフルーツも成長している。

6) これらの植物の花には蝶とミツバチが群がる。さらに、メジロ・スズメ・いそひよどり・ハトなどの鳥も加わる。我が家の風情を作りだしている。

植物なので、手入れには相当の時間と労力がかかる。ブーゲンビリアの落ちた花びらの清掃だけでも一仕事だ。植物たちを支えるロープなどの設定には、かなりの工夫が必要となった。剪定、これが一番の仕事だ。でも、これらの仕事は結構楽しい。

3. 土地造成をせずに、もともとの自然を可能な限り生かす

我が家ができる前の敷地について書いておこう。

かつては、サトウキビを作っていた畑地だったようだ。しかし、15~30度という急傾斜地だったためか、サトウキビ耕作は、かなり以前に止められていたようだ。結果的に、雑木・雑草に覆われて、「里山」風になっていた。それでも、前所有者の方が、敷地全体にわたって、クロキを20本近く、金煌マンゴー1本、ライチ3本などを植えられたようだ。樹齢から考えて、1990年代のことだろうと思う。もしかすると、80年代かもしれない。

敷地の東側にある数百坪の広大な敷地は、奥武島嶺井門中の650年を超す墓地であり、自然林に近い状態にある。西隣の200～300坪の土地も、以前は畑地だったようだが、耕作されずに自然林状態に近くなりつつある。南側は、マンゴーのビニールハウスになっており、数十本が育っている。北側は道路に面する。

こんな状態だが、グーグルの航空写真で見ると、あたり一面が森に見える。

この敷地は、売りに出ていたが、長い間売れなかったようだ。急傾斜のため、家は建たないだろうと断念した人が多かったようだ。現に、近隣にそういう方がおられる。

私たちも、家が建つのだろうか、と思った。しかし、相談していた建築士の方が、「ここなら腕の見せ所だ」とチャレンジ精神を持たれた。この魅力は、海がよく見え、森に囲まれているという自然条件がいいこと、そして、坪三万円という格安だったことがある。

この自然状態の敷地に家を建てる際、土地を均して造成するのが普通だそうだ。この近辺の土地相場は5万円ぐらいだが、造成費を加えて、8～10万円で売り出されているのをよく見かける。しかし、私たちは、土地造成をしないで、自然を限りなく残してほしいと、建築士さんに依頼した。立ち木もできるだけ残してもらい、建物敷地になるところにある木は、敷地外に移植してもらった。かくして、クロキ10数本、マンゴー1本、ライチ3本が残った。工事が始まる前に敷地を見てみると、ソテツやマッコウ（ハリツルマサノキ）のように、私が好きで、育てたい苗状態の木を見つけた。それらを自分自身で移植もした。



隣地との境界も、できるだけ自然状態にしたかった。下水道を通すために、隣地の土地を少し分けていただいたが、高さ60センチほどのコンクリート塀を作ることが条件とされたので、水路と兼ねた塀が、えんえんと続くことになった。でも結果的に、それはハブ除けの役割も担うことになった。

こうして、かなり自然状態に近い形で建築が進んだ。

工事屋さんのサービスで、庭畑の境目に石段を積んで、写真のように、庭畑を2段構造にしてくださった。これらの大きな石は、敷地の中から出てきたものばかりだ。

上写真は、2004年12月撮影

庭畑をほんの少し掘るだけで、ゴロゴロと石が出てくる。それらはすべて、庭畑の通路に敷いた。現在の通路・階段、総距離数十メートルはすべてこれらの石で、私自身が作った。

自然をできる限り残す条件を付けたものだから、工事屋さん、とくに基礎工事担当会社はかなり苦勞したらしい。なにせ尋常な方法では、工事用のユンボが入らない。結果として2社が撤退し、3番目の超ベテランがいる会社が担当した。工事終了後、そのユンボは、大型クレーンで「帰還」したそうだ。急傾斜に数メートルの穴を掘って、基礎を作ったのだ。

構造的な安全確保が欠かせないので、ボーリングによる基盤地質調査が2回も行われた。ラッキーなことに、か

なり強固な粘板岩（クチャ）層で守られていて、パイル打ちも不要と言う事だった。

ここは、近くの垣花樋川と同様、基盤の粘板岩の上に石灰岩層があり、その境目を地下水が流れ、中腹あたりからカー（湧水）となって、水が湧き出る構造だ。我が敷地も、大量の降雨があった時には、わずかだが、水がわいてくる。

4. 私流自然農とコンポストで堆肥づくり

今回は、庭畑の話。いろいろと自然農法、有機農法などの本を読んだ。結果的に、いろいろと参考にはしたが、私流の農法に落ち着いた。

その一つは、自然循環を重視し、敷地内に出る枝葉などは、すべて堆肥化している。台所ゴミは、当然のことだ。市の補助金（ほぼ半額）で、コンポストを総計4つ購入した。まず、大きな容器で乾燥させる。それをコンポストに入れる。底には、小枝類を入れて、通風を確保している。それ以外に、少量の土と市販の堆肥を加えている。



現在4つのコンポストを使用しているが、20日に一つの周期で満杯になる。そこで、コンポスト処理が終了したものを多少かき混ぜたあと、古ダンボールで覆って、熟するのを待つ。堆肥になるには、半年以上必要だ。

処理に手間取るのは、剪定した枝のなかで太いものだ。できるだけ細かく切って、堆肥になるのを待つが、10年20年かかりそうなものさえある。気長にいくしかない。1年前に作った新らせん型ハーブガーデンは、台風で出た大量の枝葉を積み上げて作ったものだ。1年たち、少しずつ沈み込み、堆肥化が進行しているようだ。

こんな風にして9年余り、コンポストを順に移動させている。現在はおおよそ2～3周目だ。もともとクチャ層で有機質が数センチしかなかったのが、現在10～20センチになり、ミミズもたくさん生活するようになった。でも、畑の栄養分はまだまだ不足だ。あと5年ぐらいすれば、畑らしくなりそうだ。

不足分は、市販の堆肥で補充している。

殺虫剤は、当然まいていない。しかし、庭畑に散在させているハーブや月桃などが、虫よけ効果を発揮するようになってきていると思う。一番の難題は、鳥よけだ。最近では、ぶら下げてキラキラするものをいくつか置いているが、さらなる工夫が必要なようだ。

5. 食事 地産地消

これまで住生活を中心に書いてきたが、今回は食生活だ。

我が家庭菜園は活躍している。とれたての美味しくて新鮮で無農薬有機栽培の野菜を提供してくれる。だが、自給率は、食料全体でみると、数%にもならない。でも、近くの花野果村やかりゆし軽便駅、そして農協スーパーで地産地消のものをかなり買っている。とはいっても、まだまだ不十分だ。このあたりは政治経済の問題なので、個人としてできることには限りがある。それでも、できることはしようと工夫はしている、というのが現状だ。

料理は、素材の美味しさを生かそうとすることが多い。塩・油・砂糖などでの味付けは、かなり控えている。とくに、私は、脂分は極力控えている。逆流性食道炎で胃酸を抑えきっていることに加えて、胆のうを取ってしまったので、脂分を取ると、胃腸が怒り狂う。沖縄そばは、好きであるが、食べた後大変なことになるので、今では、年に1, 2回ぐらいになっている。

味の基本は、ダシで取っている。小魚・昆布・干し椎茸が主力だ。畑のハーブも利用しているが、活用にもっと工夫しなくては、と思っている。「こんなにあっさりした料理にはついていけない」人がいるかもしれない。

生野菜、あるいはただ温めただけの野菜を食べることは日常的だ。私は、ドレッシングもかけずにそのまま食べる。

酒量は激減したが、最近では、飲む時も自分で作った薬用酒であることが多い。フーチバー、クワンソウ、薬草（ゲットウ、クミスクチン、ピワ・・・など数種類を乾燥させたもの）を漬けこんだものが多い。

外食は週に2, 3回で、三食自家製ということがごく普通だ。

6. 最大の悩みは、自動車が必需品である現状

連載のなかでは少々趣が異なることだが、最大の悩みが自動車が必需品である現状のことを書こう。

私がよく出かける外出先への交通手段と時間・バス代などを並べてみよう。

仕事	沖縄大学	14キロ	車30分	バス500円60分
	沖縄県立看護大学	16キロ	車35分	バス550円70分
	沖縄県立芸術大学	14キロ	車30分	バスモノレール 800円100分
	沖縄リハビリテーション福祉学院	10キロ	車17分	バス400円50分
	琉球大学	20キロ	車40分	バス1100円150分
買物	JA大里	8キロ	車13分	バス300円40分
	大里イオンタウン		上に同じ	
	JA玉城	2キロ	車5分	バス180円20分 徒歩30分
他	佐敷スポレクセンター	10キロ	車20分	バス600円120分
	マッサージ	4キロ	車5分	バス200円20分
	コマカ歯科	7キロ	車10分	バス500円60分
	メディカルセンター	9キロ	車17分	バス350円50分
	市役所(玉城)・玉城郵便局	2キロ	車5分	バス180円20分 徒歩30分
	シュガーホール	9キロ	車20分	バス600円 110分

バスは、一本で行けるのではなく、乗り換えとバス停までの徒歩移動が必要で、上に書いたのは最短例だ。この倍かかることもありうるので、実際には未経験で架空の計算のことが多い。1時間に一本ということも多い。このなかで使用経験が多いのは沖縄大学への通勤ぐらいだ。

自動車が運転できなくなったらどうしようか、というのが現実的な悩みだ。南城市では現在65歳以上対象にオンデマンドバスの実証実験をしている。こうしたシステムがどうなっていくか、期待をもって見ていきたい。こんな具合だから、私の居住地は「買い物難民地図」にも登場する。

平坦な道は少なく坂道ばかりの地区なので、自転車使用は現実的ではない。最大の手段は徒歩だが、上記で可能なのは、JA玉城、市役所（玉城）ぐらいだ。

10年余り後には、確実に車使用不能の時がやってくる。その時のことを考え始めなくてはならない。近隣の方々も、そのことが重要問題で、家族知人の送迎に頼る人はかなり多い。なかには生協の宅配を利用している人もいる。まれに電動車イスの人を見かけるが、国道の歩道も障害物が結構多く、自由な活用が妨げられている。

各地からのデイケアサービスの送迎バスを朝夕たくさん見かけるのも、最近の光景か。

こんな具合だから、自動車使用はエコロジー上の難問で、現実的に対応しなくてはならない重大問題だ。

7. 市販殺虫剤防虫剤を、ハーブによる防虫に切り替える

長い間、市販の化学薬品殺虫剤・防虫剤を使用してきた。数年前、化学製品が相当な猛毒で、虫だけでなく人間にも悪影響であることを、何かで知り、止めることにした。

そのころ、情報としては知っていたハーブによる防虫を試してみることにした。まずはゴキブリ対策に効くというベチパーを使用した。

その後、セージ、ヨモギ、月桃（サンニン）も加えた。これらを乾燥させて紙袋に入れて封をしないで開けたまま使用する。衣装箱、ウォーキングクローゼット、トイレ、台所など、家の中の10ヶ所余りに置いた。別の記事で書いたが、アリ除けとして、ペニーロイヤルミントを活用している。

これらをやってみて、化学製品に負けない効果を実感している。

加えて、もう一つの大きな想定外の効果があった。毎年、私の皮膚がかぶれるのが、ここ2、3年全くなくなった。どうやら、衣装箱に入れた化学薬品防虫剤をやめたためのようだ。

アリの方も、以前の10分の1ぐらいに激減している。

これらの作り方は、収穫して乾燥させる（写真）。それを紙袋に入れて、必要なところに置くだけだ。半年に一回ぐらい取りかえる。これらのハーブは有り余っているので、不足することはない。



8. 30年前の服が活躍する衣生活

連載最後に、衣食住のうちまだ一度も登場していない衣について書こう。もっぱら私自身の話だが。

私は、1990年春まで沖縄生活、その後の愛知生活、そのうち99年から00年の一年間はトロント生活、そして2004年からは再び沖縄生活。ということで、寒暑が著しく異なるところを移ってきた。そのため、暑さ向きの衣と寒さ向きの衣とを双方持っている。

結果として、2004年までの愛知生活どころか、99年のトロント生活、さらには90年までの沖縄生活の衣がまだ残っている。トロントの0度以下対応のものはどなたかに差し上げたので残ってはいないが。また、90年代半ばからの十数年間は太り気味になり、着られない物がいくつもでた。

捨てるのはもったいない精神で、ぼろになるまでは取っておくのが私流だ。外出着は古くなると普段着にし、さらにぼろに近くなると畑庭作業衣として使用した後、処分している。

しばらく前まで、こうして貯め込んだ衣の全容をつかむことも難しかった。数年前から、このすべてを、順繰りに一年に数回以上は着て、洗濯することにして、ようやく全容がつかめた。腹周りも10数年以上前にもどったので、着られない服はなくなった。

過剰気味なのは上着類だ。だから、上着類の新規購入をストップしている。多分、3, 4年ほどストップすれば、適切な量に落ち着くだろう。

それでも、1年に一度も着ないものもある。マフラー何枚かと、泳がなくなった水着何枚かだ。

こうした、30年前に購入したものが3組あることを確認。それらは、しっかりした布で、デザインもステキで私のお気に入りだったが、少々太って着られなくなっていたものだ。元に戻った最近、再び着始めている。しっかりした衣料は長持ちすることを実感している。



その一つ（左下写真）は、1980年代の省エネルギーであり、かりゆしウエアの先輩格だ。当時も大宣伝だったが普及はしなかったようだ。今着てもなかなか素敵だ。これは今も外出着として使用。麻を混ぜた繊維で、涼しいし強い。

もう一つ（右）は、ハーフコート、そしてジャンパー（上右）だ。素材表示が擦り切れ



て読めなくなっているが、おそらくしっかりした毛製品だ。今は普段着としているが、あと十年ぐらい着ているかもしれない。

太陽光発電装置設置物語

2013年10月6日～11月21日

1. 前史から導入へ

この家を建てるころから、太陽光や風力などによる発電に関心があり、いろいろと調べてきた。まず太陽光は、10年前は、採算のとれるものではないことが分かった。価格が高い。一カ月に数万円と大量に電気を使うならまだしも、我が家のように月1万円ぐらいの使用量では採算ラインにはるかに届かない。そして、日差しが強い

沖縄は太陽光向きだという「常識」とは逆に、日照時間が全国一短い沖縄は、余計に採算がとれないという話だ。数年前、専門業者自身も、こうしたことを話していた。

風力発電も検討したが、一般家庭で普及する段階には至っていないのが実情だ。

しかし、太陽光発電装置価格が低下し、さらに売電システムが登場した以降、状況が変化し、我が家のように電気使用量が少ない家でも、採算ラインに達するようになった。ということで、そろそろ設置するかな、という気分になってきた。

そんな時、ある業者から電話勧誘があり、電話を受けた恵美子が乗り気になった。

ということで、その業者と、数年前、我が家を訪問して説明してくれた業者とに、説明と見積もりをお願いした。

いずれも、丁寧に説明してくれ、導入には、デメリットよりメリットが大きいことを再確認した。どちらの業者にお願いするかは、ぎりぎりまで迷った。両者は、架台、メーカーの違いなどはあるが、私たちから見れば、どちらもOKであり、決断に困った。

今回の物語の最初が、恵美子が電話を受けたという事もあるし、メーカーが私の縁が深いカナダであることなどを理由に決断した。

先週、屋上を見てもらって設置の配置を決めてくれた。これまで、ドラゴンフルーツの10数個の鉢が屋上を占拠していたが、移動をうまくやって、太陽光発電もドラゴンフルーツもOKであることが分かった。右上写真は、発電装置を置くために、





ドラゴンを移動した屋上だ。

2. 設置工事完了

14～16日の三日間で、設置工事完了。2代の若者たちが、協力プレー集中プレーで無事完了。今時、若者たちだけで仕事をするのは、大変珍しい印象。明るく楽しくやっているのがとてもいい。工業高校出身者が多い。仕事もきちんとしている。若手ベンチャー企業の感じの業者だから、こんなチームを作れるのだ

ろうか。

資材は、大型クレーンで釣り上げる。

この後、沖縄電力の手続きが進行し、一カ月後には運転開始、売電開始になる段取りだ。



3. 発電開始

31日、検査が終わり、いよいよ発電開始となった。あいにくの曇り→雨の

天気で、発電量は1～5キロワットだが、ともかくもスタートした。

申込んでわずか1ヶ月で発電開始となった。予想より早い完了。

右写真は、購入する電力向けのメーターと並んで、設置された売電するメーター。

これから冬場の曇り空が多いので、発電性能全開の40キロワットに近い量を期待できる季節ではないが、楽しみだ。

左写真は、1日朝、雨空の朝8時、発電開始したが、1キロワットを示している。その前は、L oの表示。発電量 low という意味だろう。雨空でも、9時過ぎには3まで上昇。

2日は晴れ初めて、朝から20キロを越え始める。



4. 初の電気量計算

先日、電気使用量と売電量のメーター検針があり、太陽光発電の効果が少し分かった。売電スタートして12日間の検針だが、19キロワットで2356円。買電量は、一日当たり3～5キロワットほど減っている。

だから、合計して3000円余りのプラスだ。一カ月に換算すると、7000—8000円ほどのプラスになりそうだ。年間にして10万円プラスアルファぐらいだろう。無論、天気次第だ。夏場はもっと太陽光量が増えるので、年間平均にして12万円プラスアルファになるかもしれない。とすると、200万円余りの費用の「元がとれる」には、15—18年ぐらいかかりそうだ。

計算には、他の要因も考慮する必要がある。たとえば、屋上にパネルを設置したことが断熱効果を生み、夏場のクーラーの使用量を減少させるかどうか、などがそうだ。

おおまかな計算では、まあ想定の範囲内だろう。

発電量を示すメーターを見るのも楽しい。性能は最大で3.8キロだが、現在のところ3.0ぐらいが最高だ。太陽が出ていても、1.5—3.0ぐらいで、雲で太陽が見えなくなると、1.0以下になり、0.3以下のことも多い。11月に入って曇りがちの日々が多いので、性能が生かせない日々が続く。

太陽光発電受給電力量のお知らせ
浅野 誠 様

太陽光発電所からの受給電力量の検針結果について以下のとおりお知らせいたします。

電気番号		枝	CD	店所	作業区	二契約種別
画番号	家番号	1	1	226	5660	従量
27539	95					
受給電力量	全日	82 kWh		平成 25年11月分		
				検針期間 10月31日～11月11日		
今月検針日	11月12日	翌月検針日	12月12日	ご参考購入量(kWh)		
今月検針数	81	前月(取引)検針数	19	乗率	1	引当購入量
全日						242618
						前月
						前年同月
						0
						0
ご入金予定金額		2,356 円		ご入金予定金額について		
				①ご入金予定金額は、ご契約の変更等で、実際のご入金額と異なる場合がありますのでご了承下さい。		
ご入金予定日：翌月10日(金曜機能が休業日の場合は前営業日)						

年末年始 挨拶

年末年始通信 2016年12月31日

私は、30年以上前から、年賀状の枚数を徐々に減らし、年末年始通信という手紙を送ることを増やしてきました。年賀葉書ですと、文字数が限定され、型通りになりがちですが、通信だと、かなりの量書けます。といっても、歳とともに、文字数が大幅に減ってきました。

きっかけは、年末に「喪中欠礼」をいただいた方にも、年末ならお出しできることにもあります。喪中葉書を出した正月は、寂しい気持ちになりがちという私自身の体験があるからです。

さて、今年は、こんな通信になりました。

.....

70代になり、年相応に熟し楽しむとしごろになりました

2016年末から2017年初めに 浅野誠

70歳代に突入しました。アンチエイジングではなく、年相応に熟すことが良いことだと言ってきた私には素晴らしいことのように思えます。無論、人まちがいと物忘れの回数は増えますし、けつまずいたり、畑作業でころんだりとか、体力は右肩下がりで、でも、自分の気力体力に見合った対応を見つけ出すことを楽しんでいきます。

たとえば卓球です。拾いまくるのは、体力的に無理がありますが、相手との対し方の工夫とワザでカバーしています。ですから、卓球水準は維持、ないしは実力上昇さえあるかもしれません。11月には、沖縄県教職員卓球大会70代の部で優勝しました。

畑庭作業では、いろいろな工夫をして、できればオープンガーデンができるまでにしたいと思っています。果樹園・亜熱帯観葉植物園・ハーブ園めいたものを仕上げようと張り切っています。お蔭で、地上は日照が少なくなりましたので、3階ベランダを家庭菜園にしています。葉野菜はほぼ自給しています。

さて、本業の研究では、沖縄についての自称「大作」の準備作業にメドがたち、まとめ上げる作業に移りつつあります。2018-2019年には形にしたいと思っています。他にも、依頼された小論をちょこちょこ書いています。

南城市をはじめとする地域に関する仕事は、継続しています。

では、その他のいろいろなニュースを書きならべます。

・大学授業は、琉球大学教育学部では、最後の授業を終えました。大変充実した授業ができました。他にいくらかの授業とワークショップを70歳代に入っても、依頼さえあれば、続けようかと思っています。ワークショップや授業は大好きですから。

・飛行機に乗って他府県にでかけることは、2016年にはついにゼロになりました。行く機会はいくつかあり

ましたが、「迷ったときは止め」にしました。その理由の一つは、空気にあります。PM2.5 にとても弱いことを自覚してきました。沖縄でも冬場に時々やってきます。その時はマスクをするか、外出中止にします。

・たくさんのメダカに加えて、グッピーも飼っています。夢のなかで、犬や猫を飼っています。本当に飼おうかなと迷っています。

・長年の友人知人たち、そして新しい友人知人たちが、我が家をしばしば訪問してくださり、歓談を楽しんでいます。

・相変わらずブログ書きを楽しんでいます。記事はバラエティありすぎですが、それがまた楽しいのです。暇な折にのぞいてみてください。

こんなふうにして、経済的には右下がりだけど、充実と幸せ度が濃密さを増すような生き方を、個人としても社会としても、実現できるようにしたいと願っています。

最後になりましたが、皆様の幸福を強く祈念しております。

私の年替わりの挨拶 2016年1月1日

穏やかな日々ですが、いろいろとあります 2015年末から2016年初めにかけて 浅野誠

年々、穏やかな日々が増えてきます。週のうち3～4日は、外出なしに自宅で何かして過ごすことが普通になってきました。そんな日は、読書・執筆・畑・散策です。そのため、執筆量が減らないで、いろいろと書きためています。言葉通りの研究者生活です。

ここ数年は、沖縄について書くことが多くなっています。共同研究や学会での問題提起などに加えて、春ごろから、南城市史関係で「南城の民俗」調査の大きなプロジェクトにかかわるようになり、南城の集落（シマ・字）について考えることも増えてきました。

研究の中心に考えていることは、「沖縄的なもの」についてです。2～3年後には、形にしたいと思っています。中間作業報告として、ブログ「沖縄南城・人生創造・浅野誠」に少しずつ書いています。

地域に関係する事としては、他にシュガーホール運営審議会や学童クラブなどのかかわりも続けています。そんなおかげで、市内の知り合いがますます増えてきて、どこかで誰かにばったり出会うこのごろです。

では、その他のいろいろなニュースを書きならべます。

- ・大学授業は、県立看護大学と琉球大学とで教えています。若い学生さんと大変楽しくやっています。
- ・飛行機に乗って他府県にでかけることが激減し、2015年は、日本生活指導学会で岡山大学にでかけただけになりました。ついでに、倉敷・岡山・神戸巡りを楽しんできました。
- ・庭畑づくりを相変わらず楽しんでいます。芝生をやめて新たな庭をつくっていますが、全体に果樹園らしくなってきました。バナナ、パッションフルーツ、ピワ、ライチ、マンゴー、グアバなどを収穫しています。
- ・ホテルが庭に現れたこと。10月に数匹が数日間輝いていました。

- ・サガリバナが年末まで咲き誇っている事。
- ・補聴器を購入した事。これで、授業や会議で聴き返すことがなくなりました。
- ・卓球は、相変わらず、やっています。まだまだ上達中です。
- ・ブログ記事でたまったものをテーマ別に編集して、HP「浅野誠・浅野恵美子の世界」に掲載しています。
- ・メダカを数十匹に増やして育てています。
- ・2014年10月に購入したフィット・ハイブリッドは、燃費リッターあたり31キロで走っています。スロー運転のエコ運転ですが。
- ・PM2.5が、私の身体には禁物であることを、改めて確認しました。大陸から西日本経由で、沖縄にも沢山飛来して来ています。普通の人には感じないでしょうが、20くらいで、私の身体は反応します。そんな時は、マスクをしたり、外出を避けたりします。
- ・ウォーキングを続けています。南城の71ある全集落を歩きました。今は、隣の八重瀬町なども歩いています。

最後になりましたが、皆様のますますの御活躍を祈念しております。

初日の出 今年のブログ 2015年1月1日

新年おめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

写真は、今朝7時40分ごろ、新原ビーチで撮影した初日の出です。日の出時間の7時15分ごろには、ヤハラヅカサあたりに居たのですが、雲に隠されて、日の出をあきらめて帰る途中の新原で、写真のような初日の出に会うことができました。

昨年後半から、このブログの記事の減量をはじめました。年相応にしようと、思っていたことです。加えて、作業を始めて1年余りになる、「沖縄的なもの・沖縄らしさを考える」の仕事の比重を高めるためです。これまでもブログで小出ししてきたことではありますが、1000年以上の歴史的視野と、教育や音楽芸能だけでなく、経済・政治・生活など多様な分野に視野を広げて考える作業をしています。



2, 3日前に、沖縄における空手の歴史をテレビ特集で放映していましたが、興味深いことが含まれています。

歴史検討というと、政治史とか教育史とか、個々の分野に焦



点化したものが多かったのですが、分野を統合してみると、どうなるかは興味深い問題があります。テレビによると、主な空手の諸流派の成立は、明治期から戦後の時期です。その背景には何があるのか、その前の「手（ていー）」の歴史とのつながりをどうみるのか、などなど。あるいは、柔道・剣道、さらにはヨーロッパ由来のスポーツの流入・普及といかに関係するのか、・・・興味は尽きません。

「沖縄的なもの」が重視される分野と、「沖縄的なもの」が抑圧排除される分野との違いはなにか・・・

こんなことを、さらにここ2~3年かけて深めていきたいと思っています。

年末年始通信

2013年12月31日

寒い日々ですが、暖まるスローライフをしています

2013年暮れから2014年1月にかけて 浅野誠

全国的に寒いというニュースがとびまわっていますが、ここ沖縄も12月に入るところから、寒い日々が続いています。そのためか、ほぼ3年ぶりに寝込みましたが、体調そのものは、以前では信じられないぐらい快調です。快調さを作りだしているのは、無理せずマイペースで自然とともに暮らすスローライフをしているからではないか、と思っています。

私の日々の生活は、読書・ブログ記事書き・諸業務・大学授業・南城市の諸企画への関わり・卓球練習、そして畑仕事でまわっています。長年続けた生活指導学会の役員任期も終わり、他府県に出掛ける機会もぐっと減りました。月一回は飛行機に乗っていたころとは様変わりです。

読書は、週に2冊ぐらいのペースで、興味をそそられたものはブログで紹介しています。ブログは、「田舎暮らし・人生創造・浅野誠」が、膨らみ過ぎたので、新しく「沖縄南城・人生創造・浅野誠」をスタートさせました。また、過去のブログ記事、さらに以前のホームページ記事を編集して、新ホームページ「浅野誠・浅野恵美子の世界」に掲載していますので、こちらもよろしく。

大学授業は、沖縄リハビリテーション福祉学院、沖縄県立看護大学、沖縄大学、琉球大学に加えて、沖縄県立芸術大学大学院の授業を担当しています。現代の若者たちの新たな像に多くの発見をしています。芸大の授業は、博士課程の沖縄音楽史・沖縄音楽教育史にかかわるもので、私自身の発見がたくさんです。オンチの私が、音楽関連の授業をするとは運命のいたずらでしょうか。

南城市関係では、南城市文化センターシュガーホール運営審議会会長に加えて、尚巴志活用マスタープラン作成検討委員会座長をしており、学ぶところ大の仕事です。ほかにも、南城市は色々な企画が多く、活性化しているのですが、そうした企画にいくつも参加しました。

一昨年からはまった沖縄県、そして南城市の学童クラブとの付き合いは続いています。指導員研修の場が多いのですが、その他にも、いろいろと付き合っています。楽しい仲間たちといった雰囲気です。

卓球は、強くなるという目標を捨てたわけではありませんが、楽しみつつ健康を向上させることに重点を移しつつあります。週2回の練習日の参加者は、私が最高齢になることが多くなりました。50, 40, 30, 20

代といっしょに練習するのを、楽しんでいきます。

畑生活はブログ記事に沢山書いていますが、この1年間の最大のことは、新らせん型ハーブガーデン（写真）を作ったことです。今、50種類ほどのハーブを育てています。果樹も増やしました。あと数年もすると、この畑も林になりそうです。普通の野菜は、ベランダでのコンテナ栽培になりはじめています。

最後になりましたが、皆様の益々のご多幸を祈念しております。

2013年の私 研究テーマ、HP作成など 2013年1月9日

新年になってようやく、2013年全体を見渡す気分になってきた。大学授業とか、ワークショップや会議とかいろいろあるが、なんととっても、研究の進展を基軸に考えるのが、私の「ならい」だ。

その研究にかかわるメモめいたものを、このブログに書いているので、読者の皆さんも研究のおおよそはおわかりいただけるだろうが、あらためて書くことにしよう。

2013年の前後、つまり2010年から2015年は、次のようなテーマにかかわっている。

主——生き方、沖縄教育、沖縄

副——ワークショップ、健康、フィンランド、地域・農業、自然（動植物、天候、景観など）

このなかの、ワークショップと沖縄教育に関しては、ひとまとまりの本の形にして、公開した。この2013年に集中して取り組もうとしているのは、生き方論だ。

これらを、日常的にはブログで書き、ある程度たまったところで、電子出版形式にして、ホームページ「浅野誠・浅野恵美子の世界」にアップロードするというスタイルを、昨年つくった。そのなかで、紙の本で出版するという形のものも生まれてくるかもしれない。

そのホームページ掲載のテーマを並べておこう。

南城物語5冊（済）

若者の生き方シリーズ（3冊済、1冊作成中）

我が畑・庭シリーズ（2冊済、今後数冊）

さらに、以下のものが候補にあがってくるだろう。

生き方・人生論（スローライフ、人生後半期）

私の生き方・人生論

沖縄論

教育論

健康・スポーツ論

大学論

旅

ワークショップ論

硬軟まじえて、年間数冊アップロードできるようにしたいと思っている。

こんな研究的な仕事を軸に、日々の生活、大学授業、各地での講演・ワークショップ、学童保育などへの支援、シュガーホール、日本生活指導学会などにかかわっていきたいと考えている。

こんなスタイルの生活が、この数年続きそうな気配だ。

ところで、正月の近隣の方との会話で、「健康そうね。若返っているみたい。背筋が伸びているし。」といわれた。お世辞半分にしても、嬉しい。

そういえば、50年近く、実年齢より年長に見られるのが普通だったが、最近、年齢相応または年齢以下に見られるようになってきている。長い間、年長役をとってきたので、年長に見られても別にどうってことはなかったが、若く見られるのも悪くないな、と思う。

2011年振り返り 私の9大ニュース

2011年12月31日

私も、法的に高齢者扱いされ、年金をはじめとする諸手続きがあり、結構めんどろに感じました。嬉しいことは、航空券のシニア割引があることで、先日も全国どこでも片道12000円という特典を利用しました。それにしても、年金主体の生活です。早期退職ですし、一つの共済に20年以上所属という特典を受ける資格がないので、年金額は大都市で暮らすには無理があるのですが、沖縄田舎暮らしの「月10万円生活」では大丈夫です。

2010年もそうでしたが、2011年もビッグニュースはありません。小さなニュースを綴っていきます。

1) 小さい中で最大のニュースは、『沖縄おこし・人生おこしの教育』（アクア・コーラル企画刊）を出したことです。私なりの沖縄教育への強いメッセージ・提案です。

2) 身体はますます健康ですが、生まれて初めて入院・手術をしました。胆石・ポリープがあった胆のうを除去する手術です。胆石の痛みもなかったのですが、不要物は取るということで、誕生日に手術をしました。退院後4日目には、卓球練習をしました。体重は30年前に戻りました。

3) 卓球は、これまでの30年近くの卓球生活の中では、最強のように思えます。沖縄県教職員卓球大会で初優勝しました。もともと60代の部ですが。そして、沖縄県民体育大会卓球の部で、南城市代表として出場し、南城市5位という飛躍にほんの少しの貢献ができました。

4) 一週間の生活リズムは、大学授業日、卓球練習日に加えて、合唱練習日を軸にまわっています。中山合唱団の実力は、徐々にですが『右上がり成長』です。私は、「カロミオベン」というイタリア歌曲に挑戦しました。

5) 庭・畑の話ですが、近隣農家と同じように、二つの巨大台風、そして秋以降の多雨に悩まされました。300個の実をつけていたマンゴーの収穫ゼロ、4メートルに成長し、春には美しい花を咲かせ、香豊かなティートリーが根元から折れてしまいました。他の果物・野菜・ハーブも打撃が大きく、ここに住み始めて7年間余では

最大の困難に出会った一年でした。東北大震災とは比較になりませんが。

夏には、我が家で移住者の集いがありましたが、震災・原発避難の方が何人もおられました。

6) 昨年同様、今年もフィンランドのヘルシンキに半月足らず滞在しました。フィンランド「学校→職場」と言う問題で、少しばかり検討研究をしています。

7) 3つの大学・専門学校の授業を、平均週2コマしています。そのなかで、若者の「人生おこし」を考えています。

8) 日本生活指導学会での研究などこれまでの継続も、大きな変化なしに蓄積しています。

9) ブログ「田舎暮らし・人生創造・浅野誠」をスタートして5年、アクセスが29万を超えました。ブログ容量の限度があるので、すでに三分の一程度削除しましたが、もったいないので、削除記事をもとに電子出版本を出す準備に取りかかっています。電子出版は初体験ですが、面白そうです。

加齢・老化と生活・老前整理

忘れ事 「おじいちゃん」とよばれても自分の事と気づかない 愉快的な70歳の日々

2016年12月29日

このところ、愉快的な物語が続出。私個人のことだが、これから70歳を迎える人には参考になるかもしれない。愉快的な話が出た時に綴ろう。

1) 連続忘れもの

プリンターのインクの購入。インク番号を忘れたので、店員に調べてもらうが、結果、前の機種のものだった。家に帰って気が付く。店に出直す。今度は、カードを忘れる。カードで購入したので、カードなしでは交換手続きができない。同じ日に3度も出かける気力を喪失。

日を改めて出かけ、無事交換できた。

2) 「おじいちゃん」とよばれても自分の事と気づかない

食堂で、隣の席に、親子孫三代家族が着席。孫が、子ども用の椅子を希望。祖母が、「おじいちゃんが通れないでしょう」と。恵美子が「大丈夫ですよ」と返す。なぜ、恵美子がそれをいうのか不思議に思う。

私は、「隣におじいちゃんもこられるのか、賑わっていいなあ」と思う。

食事がすすんでも、隣のおじいちゃんは現れない。そこで、さきほどの会話のおじいちゃんは、私のことだと気づく。

我が家では、孫は「おじいちゃん」ではなく「誠」と呼んでいるので、私には「おじいちゃん」のリアルな感覚が育っていないのだろう。

3) 外出先で、出会った初対面の人にも声をかける。

店員にも話しかけることが多い。郵便局で、応対した女性局員の制服、とくにベストがかっこいいと思う。そこで、「男女兼用で、いいですね」と話すと、「男性はベストではなくてスーツです」と。「最近ですか」「もう7年ぐらいいになります」

私の的外れぶりが目立つ。

スーパーのレジでも、無言でやりとりするのは、寂しい感じがするので、よく話しかける私。

老前整理としての預金の解約 10年前のハーブ販売総額は16000円だった

2016年12月25日

先日、老前整理の一つとして、眠ったままになっているJAバンク預金の解約をしてきた。2006年秋から2007年春までの半年間、自宅栽培のハーブを、近くのファーマーズマーケットの花野果村の出していたが、その売り上げ代金が振り込まれていたものだ。

振り込まれてきたが、一度も引き出すことなく、10年近く眠ったままにしておいた。そのままではまずいので、解約したわけだ。印鑑も、どれを使ったのか忘れていたので、可能性のありそうな印鑑をもっていった。対応者がやさしく丁寧でよかった。印鑑は、無事判明した。

処理を終えた通帳を見ると、ハーブ代金は総額で、16000円余りで、10年間の利息が数十円だった。

そのころは、一生懸命やっていたつもりで、週に2回ぐらいは袋詰めしたハーブに値付けして、店頭で並べていた。多分、労力は10万円相当ぐらいだろうが、売れ残りが多く、全くの赤字。初心者のやることだから、社会勉強としての意味があったと思う。とにかく、楽しい思い出だ。

店頭で待っている時、「玉城村農業協同組合 創立50周年記念誌」が何冊かおいてある。聞いてみると、希望者に寄贈しているとのこと。昨年、玉城図書館で見つけて、手書きで書き抜きをした。寄贈されると聞いて、喜んでいただいた。

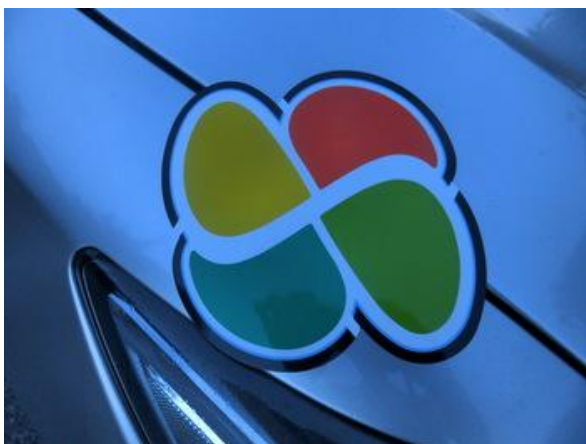
JAバンクに入る前に人間違いをしてしまった。そして帰り道、声をかけられて、とっさにはどなたかが分からなかった。こんなことが増えてきた。年相応になってきた。そんな老人風になっているバンクの担当者の丁寧さ親切さをありがたく感じた。

70代に入ったことを、しみじみと味わうこのごろだ。

年月日	種別	金額	合計
28-12-21	繰越		*14,964
19-06-05	振込	*1,621	*16,585
19-09-10	貯金利息	*12	*16,597
20-03-10	貯金利息	*14	*16,611
20-09-16	貯金利息	*15	*16,626
21-03-09	貯金利息	*7	*16,633
21-09-14	貯金利息	*3	*16,636
22-03-15	貯金利息	*3	*16,639
22-09-13	貯金利息	*2	*16,641
23-03-14	貯金利息	*1	*16,642
23-09-12	貯金利息	*1	*16,643
24-03-12	貯金利息	*1	*16,644
24-09-10	貯金利息	*1	*16,645
25-03-11	貯金利息	*1	*16,646
25-09-09	貯金利息	*1	*16,647
26-03-10	貯金利息	*1	*16,648
26-09-16	貯金利息	*1	*16,649
27-03-09	貯金利息	*1	*16,650
27-09-14	貯金利息	*1	*16,651
28-03-14	貯金利息	*1	*16,652
28-12-21	ご解約	*16,652	*0

免許証更新 70歳として、老人として、人生を楽しむ 2016年10月6日

5日、免許証更新をして来た。記念に「高齢者標識」を買って、自動車の前後に取り付けた。私ののろのろ運転にいらいらするタイプの前後の車に、理解を求めらうえで有効だろうと思っただけのことである。



「こんなものをつけるか。私はまだまだ若い」という方もいるが、それはそれでいいだろう。70歳に、老人になることに、私は抵抗感はない。免許更新のための高齢者講習は、時間とお金がかかるが、それなりに有効なことだった。なぜか、免許センターの方々は、高齢者に対して親切だと感じる。受付にいくと、すぐにどんどん世話案内してくれる。わずか10~20分で新免許証が渡される。

親切に世話されることを、私は楽しんで受け入れている。免許証に限らず、こうした機会が増えてきた。それを生か

して老人人生を楽しんでいきたい。

次の更新は75歳の誕生日だが、どんな気持ちになっているだろうか。

老前整理の難題 書籍・授業資料・研究資料の整理先 2016年9月4日

数年前から少しずつ進めている老前整理。衣料とか書類とかは順調に進み、あと数年でメドがたちそうだ。難題は、次のものだ。

1) 授業資料。授業準備のための授業ノートなどは難しくはなく、整理はほとんど終わっている。

難題は、授業の産物として、受講生たちが作成したレポート集、活動報告、写真の処理だ。

1970年代から1990年代にかけてのものが膨大にある。私個人が作成したというより、受講生が共同で作成したものだから、どうしようかと考えあぐねている。とくに写真アルバム（ビデオを含む）は、20~30冊はある。 下写真は、我が家の図書室光景



2) 研究資料

沖縄教育史関係資料は、現在進行中の作業にめどがつく数年後に、整理作業を始める予定だ。

また、1980年代後半の「集団づくりの新しい展開」と「新版学級集団



づくり入門」の間にした作業の資料をどうするかは未定だ。

3) 数千冊の書籍

図書館が引き取りをしない時代に、いろいろな人が困っているだろう。私と恵美子が所有するものは、多分5000~10000冊だろう。すでに、希望者には差し上げる作業を進めているが、まだ、全体の1~2割の進展だろう。

今は、贈呈物を、写真のように、分類してケースに入れて、訪問した希望者に差し上げて



いる。

私の健康寿命時期を80代半ばまでと推定して、それまでに処理を終えて、子どもたちに処理の苦勞をさせたくないと思っている。私のものは、書庫の一角に、小さく「浅野誠資料コーナー」のようなものを作って、すべてを収めておきたい。そのためには、現在のこれらの所有物の98%を処理する必要がある。

何かいい知恵があったら、ほしいものだ。また、引き取り希望の方がおられれば、連絡してください。

写真の整理は、老前整理の一つ 庭畑の10年の変化 2016年2月22日

老いる前に、いろいろなものを整理する老前整理を始めて3年がたつ。その一つとして、写真整理がある。アナログ時代のアルバム整理は終わって、今はデジカメ時代の写真を整理している。

デジカメは、何枚とろうが経費がかからないので、結構な数になる。デジカメで写し始めたのは8年ほど前だった。その時は携帯電話のカメラも併用していたが、今では使わず、デジカメだけにしている。



デジカメ写真は、コンピュータのなかに収まっているが、アルバム感覚で手元で開いて見



られない。そこで、写真数を大胆に整理（撮影したものの8割ぐらいを削除）して、残したものをプリントアウトすることにした。この作業は数か月かかったが、終わりが見えてきた。

作業は、いろいろな思い出を呼び起こす。



写真は、この家に住み始めたころの畑と庭。もともとあった木々と、建物建設で移植した木々が植わっているだけで、土色の地面が少々殺風景だ。建物も、打ちっばなしコンクリートのままだ。

今では、こんな風になった。10年余りだが、歴史を感じる。



老前整理 健康管理 2015年6月18日

ここ数年、老前整理にいそしんでいる。衣類・小物は、メドがついてきた。メドというのは、どのくらい持っているかの全体像をつかんで、それを何年かけてどう整理するかメドだ。過剰にもっているものも、数年で適正な量になりそうだ。過剰例は、春秋の半袖の上着だ。90年代00年代のものが、愛知から沖縄に移住したことで、ダブってしまっているのだ。

ファイルなどの書類整理が手間がかかる。これには、数年かかりそうだ。まずは、5~15年前のものの第一次整理、次に15~25年前のものの第二次整理、そして、30年以上の前について、「記念品」限定に整理する、という三段階でしている。

もう一つ大きいのが、書籍整理だ。多少は進展しているが、まだメドがたっていない。ここ2、3年でめどを立てたい。引き取り先を探して決めることが最大のテーマだ。

整理をしながら、思い出すことが多い。それだけになかなか整理が進まない、ということがある。

今しているのが、健康関連物だ。これは、思い起こすが多いものだ。人間ドック記録、健康回復のためのスポーツクラブ記録、対処が必要な病気の資料、卓球の試合記録賞状など雑多だ。自分の身体の歴史をたどれて、結構楽しいものだ。

写真は、一番古い人間ドック記録だ。29年前のものだ。そのころから、ほぼ毎年、人間ドックに通ったから、貴重な記録ではある。そんなことあったかな、と思うことも多い。

たとえば29年前は、身長174.3センチである。それから2センチ余り縮んでいる。驚きだ。体重は2キロ減。10年ほど前に、70キを記録したこともある。

29年前のものは、全くの「異常なし」で、良好だった。

こんなデータを見ていると、苦しんでいた時、要精密健診で不安になったが、結果よしで終わった時などを思い出す。繁忙生活を送った90年代末から、病名発見の連続だった。そこで、00年代は健康のために必要なことを色々やった。ということで、スポーツクラブでのトレーニング記録なども沢山あるが、処分した。

いままも服薬を続けている逆流性食道炎が、12年前に人間ドックで発見されたことも思い出した。

そして、10年代に入り、著しい健康回復で、今や生まれてこのかたでは最高状態だろう。無論「年相応」であるが。



岡崎武志「蔵書の苦しみ」光文社2013年を読む

2014年5月6日

2万冊とか数万冊とかの蔵書をもった方々の事例にもとづく話が、かなりコミカルにたくさん登場する。「苦しみ」というタイトルだが、実はそれで「幸せ」「楽しみ」を感じている人々の話だ。本に囲まれる以上に、本に閉じ込められる、ないしは本と一体化して暮らしている人々だ。

と書いたが、そういう私も、本書のレベルまでではないにしても、かなり近い生活だ。夫婦合わせて、1万冊以上所蔵している。無論、引っ越しなどに合わせて、数千冊は処分しては来たが、現在作り付けの35の本棚（6～7段）のなかで生活している。

贈呈することを中心に、整理をスタートしているが、購入などで月に平均して10冊ぐらい入ってくるから、多少減るぐらいで、このペースで行くと、整理完了までに数十年以上かかる。

ということで、本書を読むと、なにかいいアイデアが見つけれられると思って購入読書したのだ。結論的にいうと、秘策は見つけれなかった。

見つけたとすれば、取得した本の綴じた箇所をカットして、全ページをスキャナーにかけて、電子本のように取り込むことだ。娘が以前からそうしていたことは知っているし、最近訪問された知人もそうされていた。これを「自炊」というそう。

本好き人間には、なぜか寂しい気持ちをもってしまったり、現実的にいうと、大き目のタブレットにしても、眼の健康上、画面を見る時間を大削減したい私には、できない相談だ。

一番現実的な案は、自宅古本市を開くことだ。とはいっても、田舎のここでは、一日に何十人も人がくることは望めない。ではフリーマーケットはどうだ、といわれると、「いいかも」と思う。しかし、私たちが所蔵する本の八割以上が専門書だから、一般の方々は「ひいて」しまわれるだろう。

だから、今すでに始めている、このブログでの紹介、来訪者への進呈を中心にすすめていくしかなさそう。それを、より一層大々的にしたいと思う。

と同時に、人生の残りが、何十年もあるわけではなく、今後の仕事上の必要で使う蔵書がそれほどあるという訳ではない。研究課題を大胆に整理して絞り、それ以外を大々的に処理する作戦へと踏み出すこともしなくては、と思っている。

ややこしい年金手続き 加給年金 2011年12月21日

65歳誕生日後に提出した書類に、年金事務所からの問い合わせの電話があった。一つは、「復帰前の沖縄に居住」していたかどうか、の件である。これはすでに年金事務所に問い合わせたことの確認済であることを伝えた。沖縄の年金制度が本土の年金制度に統合していく過程で不利にならないようにする措置であるようだ。私は、2ヶ月足らずの「復帰前在住」であるが、「不利」には該当しないようだ。

もう一つ、これは私には「理解困難」だったが、恵美子の年金に私への「加給」があるとのことだが、その手続きはどうなっているか、との問い合わせだ。これは恵美子の方が、共済組合に相談し処理した。この加給は、私が65歳になると終わりであるが、恵美子が満額年金に達した後の2ヶ月間、支給されるとのことである。

その手続きが、私の年金額にもかかわるといふことで、恵美子の手続き完了後、必要書類を年金事務所に提出して、やっと私の年金手続きが完了になるというのだ。なんともややこしい話だ。ややこしい話になるのは、同一共済組合所属が20年以上が資格者で、私のように、共済組合に二つ所属し、いずれも20年未満の場合は、対象者ではないが、恵美子のように二つの職場だが、同一組合20年以上所属なので対象になると言うのだ。

そして、別に扶養関係でもないのだが、私の年間所得が850万円以下だと、対象になるというのだ。現在の私の年収は年金中心なので、その額の数分の1だから、対象になるというのだ。しかし、私が65歳になると、対象外となり、別の仕組みに移行するので、恵美子が対象年齢になり、私が65歳未満である、わずか2ヶ月が対象になると言うのだ。

このあたりの話は、説明を聴いても、よくは飲み込めないが、担当者の指示に従って、必要書類を整えた。

そして、恵美子の加給年金手続きが完了し、送金も完了したので、その書類のコピーもふくめ、戸籍謄本など数点の添付書類を含めて申請書を年金事務所に送付した。

これで、やっと完了ということだが、複雑なので、また担当者から電話があり、追加書類が必要になるかもしれないな、と思ったりもする。

こうした書類作成には慣れていふつもりだったが、今回はよく分からずに進行する点が多かった。慣れていない人にとっては、もっと大変なことだろう。

もっと分かりやすい制度、そして手続きにならないかと切望する。

こうして、私は、法的に高齢者になり、本格的な年金生活者へと移っていく。年金額の削減が話題になっている昨今、多少の心配がある。ちなみに、私の年金額は、名古屋などの大都市だったら、生活していけるかどうか微妙だが、ここでの田舎暮らしなら、やっていけそう。

65歳になると、介護保険被保険証・納付通知書が来る

2011年11月13日

65歳になって1ヶ月、行政にかかわるいろいろなものが届き、手続きなどが必要になる。

年金手続きについては、別の記事で書いた。ほかに、インフルエンザ予防接種の案内が届いた。

そして、介護保険被保険証・納付通知書が届く。それらには説明文書がつけてある。けっこうややこしい。

65歳になるということは、こうした行政文書といっばい付き合い合うことなんだ、と発見する。

こうした文書を行政側は結構工夫して分かりやすく書いていると思う。行政文書は法律に基づくので、法律用語に慣れない人にはなじみにくい表現が多い。それを分かりやすくする工夫を感じる。

それにしても、やはり行政の立場で書かれている。当事者の立場で書く点が弱い。文章をやさしく分かりやすくするといったことだけでなく、当事者の目線・立場で書く、と言ったことが求められるのではないか。

だから、たとえば当事者が読み活用する場面をシミュレーションして、文書を修正・レベルアップすることが大切ではないか。

連載したフィンランド調査報告で紹介したのだが、ヘルシンキ市には、「生きた実験室 リビング・ラボラトリー」という組織があり、行政がする社会サービスを、サービス現場での当事者の体験・声を元に充実させる活動を展開している。その活動に注目し学ぼうとする日本の自治体も出てきているようだ。

このほかには、文書が届くわけではないが、航空会社のサービスとして、シルバー割引、シニア割引というものがある。スカイメイトのように、搭乗希望時間に空港に行って、空席があれば半額で搭乗できるというサービスを受けられる、という情報を知人からいただいた。近くそれを利用して見ようと思っている。

近隣（中山）

国道331号線中山改良工事完成 2015年7月14日

14日午後開通式と通り初めがあって、散歩がてら出かけた。雨交じりの昨日までとは変わって、今日から晴れて、夏らしい。役所の方々、工事関係者、そして我が中山住民が参加した。新品できれいだ。開通式の類は初体験だ。

曲がりくねった中山内の道路が、ほぼまっすぐに新設トンネルをくぐりながら通り抜けることになる。これで奥武入口から百名までは、1分近く短縮されるだろう。

地元の私たちは、どう利用したらいいだろうか。多分、私は旧道を使い続けることになるだろう。なにせ、中山をショートカットして、中山住宅街を通らずに行く道だから。来客にはどう道案内したらいいだろうか。これまでのわかりにくさが、さらに複雑になりそうだ。

それと増加する観光客で、これまで中山を通して新原方向に進む人が多かったが、かれらはどうするのだろうか。

トンネルの西側で、旧道の上に新設された新道の橋の上からの景観もなかなかのものだ。写真で見つけるの



は難しいが、我が家も写っている。

(右写真)

アジアからの個人観光者が、このあたりでも増えた 2015年7月9日

先日、近隣の夕方散策をしていると、アジアから観光者から道を聞かれた。台湾か大陸かわからないが、多分中国から来られた方だろう。夫婦と子ども一人でレンタカーで移動しておられる。スマホをもって、「浜辺の茶屋」への行き方を聞かれた。英語での対応になった。

一か月ほど前には、我が家近くで、カップルにバス停を聞かれた。同じように、中国からの方たちで、英語で対応した。

しばし前には、近隣の方が、自動車トラブルにあった韓国からの旅行者を助けてあげたら、後で、立派な贈り物が届いた、という話を聞いた。

このごろ、アジアからの観光旅行者で、個人でレンタカーなどで来られるケースが増えている。私が住むあたりにくるのは、相当に調べてくる人たちだろう。もしかすると、ガイドブックにも記載されるようになったのかもしれない。

しばし前までは、団体旅行が多かったが、それに加えて個人旅行が増えたのが、今年に入っての特徴だ。

中国語やハングル語ができない私には、英語でのやり取りしかできないが、相手も、旅行英語には慣れているのかもしれない。もっとも、私のような高齢者が英語で対応するのに、驚かれたようだった。

そういえば、数年前に台湾旅行した時も、若者に道を尋ねたり、レストラン・メニューでは英語が使えた。

観光旅行には、英語が手っ取り早いようだ。

しかし、観光客の増加が激しいこのあたりの案内標識の整備はゆっくりだ。外国語のものは皆無に等しい。また名所旧跡や景観を楽しむことにとどまり、人々との交流は極めて少ない。このあたりの工夫が求められているだろう。

中山の字共同作業 2014年12月7日

7日午前、恒例の字中山の共同作業。グスクロードから海岸までの道沿い・川沿いなどの草木の除去整理だ。朝8時から昼まで。

私はいつも通り、タマグスク近くのドコモの通信塔あたりから降りてくる道に沿って作業。今年は、多雨だったためか、草木の伸び具合がすごい。そし



て、地面が水分を過剰に吸って、土が道路にあふれだしているところもある。交通量はとても少ないのだが、タマグスク脇から降りてくる道なので、何百年も続く道だろう。

次は、ジーハンタの草刈

そして、平地に出ると、排水路に沿っての草刈。これがなかなかの大仕事だ。

草刈機、鎌などを使って、みなさんとても上手く精力的にすすむ。私は参加して10年になり、一応のコツは分かるが、問題は体力。2時間まではもつが、それを越すと、半ばダウン状態。若者に心配されてしまった。

それでも、休憩時間などに近隣の人と話すのは結構楽しい。Uターンの人とか、若い世代の新しい参加もある。見回したら、私は上から3番目の年齢。70代半ばになっても、一人前以上に働く人もおられる。

近隣発見散策シリーズ

2014年9月13日～11月4日



1. 明け方前の中山・サチバル・新原・太平洋

散策に絶好の季節になりつつある。このところ、早朝散歩を楽しんでいる。卓球練習の翌日は休むが、それ以外は、5000歩前後の散策だ。今は、海岸沿いが多いが、丘方面へも、足を伸ばす回数が増えていくだろう。

ということで、散策中に発見したものをお届けしよう。

今回は、朝5時30分スタートで、新原に向かい、海岸沿いを戻るコース。日の出が6時過ぎなので、散策中、少しずつ明るくなっていく、という感じだ。

我が家から20分足らずで、新原近くの展望のよい場につく。遠くに久高も見える。岩は、新原の岩たち。



そこから戻り、サチバルから海岸に出る。海岸を少し中山にむかったところからサチバルの景観を移す。

さらに、中山海岸を歩く。先日の大規模海岸清掃で美しくなった。

海岸から農道に戻る。中山集落を写す。右の一番高い所がタマグスク。タマグスクの下に見える長方形の建物が我が家。



2. 農家の畑 オクラ・ウリズン豆・バナナ・サトウキビ

私の散策路には、畑の農道が多い。

だから、季節の作物植え付け・管理・収穫作業に出会うことが多い。

この季節の収穫は、オクラ・ウリズン豆（リュウキュウシカク豆）が中心だが、まだナーベラやシブイ（とうがん）などもある。

写真は、赤身がかったオクラ（左写真）とウリズン豆（右写真）だ。

今はまだ暑い季節なので、農家は日の出前から畑に出て作業をしている。ちょうど、私の朝の散歩時間と重なるので、朝のあいさつを交わすことがしばしばだ。

バナナ畑も結構ある。パパイヤもよく見かける。

面積的に多いのは、なんといってもサトウキビだ。

畑の真ん中に、浄水施設がある。下の写真に写っている赤瓦建物を初めて見る人は、浄水施設だと気づかない。浄水施設から出てくる新しい水を農家は畑の散水に使っている。



3. 海岸とイノノの多様な光景



私の散歩コースでは、海岸・イノーを歩くのが定番だ。特に夏は暑いので、丘の方へは滅多に行かない。海岸方向に朝かたにいくのだ。

干潮の時は、イノーの上を歩く。大潮干潮であれば、300メートルほど沖まで歩く。運動靴で濡れないで行ける。

今朝は、台風接近もあるし、干潮時間ではなかったなので、岸辺に近いところを歩く。

写真は、中山海岸近くのイノー。先に見えるのは奥武島。

岩場に、マングローブが5本根付いている。



2年前に合計8本根付いていたが、減った。将来、マングローブ林になる

には、条件が整っていない感じがする。種は、近くの志堅原海岸のマングローブ林から流れ着いたものだろう。



サチバル近くの海岸にある写真の岩は、巨石が倒れて、鳥のくちばしのような形になっている。私が愛する岩だ。

左写真は、海岸に流れ着いた海藻・海草。

8月下旬の大規模清掃のおかげで、ゴミはとても少ないままの状態が続いている。今回の台風は、北風が中心なので、ゴミ漂着は少ないだろう。南風の時は、海上をさまようゴミが大量に押し寄せる。



4. 中山 玉城 サチバル景観

海岸か、海岸近くの農道を歩くことが多いので、近辺の集落を眺めることが普通だ。

まず我が中山
右手に見えるのが我が家、我が家の右手にも十数軒あるのだが、森に隠れている。



右中写真は、中山の西側。国道バイパス工事中。中山の旧名は仲栄真



左下写真は、中山の隣の玉城。18世紀に、中山は玉城から分村したのだ。

玉城の端で、新原にまたがっているのは、サチバル（右下写真）。「先の原」ということだが、「幸」を連想させるのがいい。

中山も玉城も人口200人余りで、南城市では最も少ない部類の小さな字だ。

私の散策は、さらに東側の、百名・新原、また西側の富里・當山・奥武島までいくこともしばしばだ。



5. ガルガーの滝 旧道からの海岸景観

台風で2日間閉じ込められて、散策も畑仕事もできず、体重が1キロ増加。今日から2日間はたくさん散策と畑仕事をする。畑仕事といっても、台風の後片付けだ。

今日の散策は、いつもの海岸を歩いてから、中山の畑地の北西端にあるガルガー滝を見に行く。

雨量の多かった台風後で、滝らしくなっている。いつものチョロチョロとは、全く違う。源は、琉球ゴルフ場、グスクロード公園あたりで、富里と中山の境界を下ってくるガルガーが、国道331号線をくぐるところで、滝になる。

中山の農道から、滝壺近くまで遊歩道ができていたが、今は草におおわれて通行不能。



この景観はなかなかものだが、知る人は滅多にいない。

ガンガラー谷と間違えそうな名前だ。

もう一つまずいことに、滝の上を331号線のバイパスの橋が通ってしまった。諦めるしかない。



温度が下がってきて、汗をかかなくなってきた。そこで、海岸沿いだけでなく、丘側への散策を再開している。写真は、丘中腹を富里から中山を通して百名までをつないでいる旧道から見た海岸だ。先週撮影。

左写真は、奥武島方向

右写真は、字玉城方向





6. 渡り鳥（アカハラ ダカかサシバか） ス スキ林 犬訓練場

散策していると、いろい
ろな出会い・発見がある。



14日朝、渡り鳥の群れに出会った。6時50分、国道331号線を中山から百名方向に上っていくと、10数羽の大型の鳥が見える。帰宅して野鳥図鑑を調べると、アカハラダカとサシバが候補になりそうだ。説明文を読むと、10月、早朝、大群という条件にあうのは、アカハラダカ。サシバの可能性もある。1000メートルぐらいの上空なので、私の判別能力ではわからない。

この時期、見かけることが多いが、たまたまデジカメを持参していたので、撮影できた。わずか5分ぐらいで西方に消えた。

丘の散策路では、放し飼いの養鶏場があるし、写真のように犬訓練場もある。

海岸散策中に美しい穂を出しているススキ林に出会う。まっすぐ立っているので、ススキでなさそうに見えたが、数日後には垂れ始めたので、ススキだろうと思う。



7. 旧道 散策と近隣での発見



このシリーズ5回目でも紹介したが、涼しくなるこの時期は、丘側散策が増える。この地域の年長者は、現在の331号線を「軍道」と呼ぶことがある。戦後米軍が作った道路だからだろう。その軍道にも、ところどころバイパスが作られている。現在、中山集落あたにも、トンネルや橋のあるバイパスが工事中だ。

軍道以前の旧道があるが、現在も使われている。富里から百名まで、タマグスクのある丘の





中腹に2キロ
余りになるう。
車は通るが、
出会うことは
めったにない。
このあたり
は、中山の昔
の集落があっ
たところで、



右写真の道路沿いには、20年ほど前まで家があったそうだ。現在は、字玉城では10軒以上あるが、字中山では井上愛犬訓練場（左写真）だけだ。でも、字中山の西端では、住宅用の土地造成工事が行われている。道路は西端で富里に入るが、富里は100軒近くの集落だ。

下左写真は、道路の中山と富里の境界あたりから、富里集落を見たものだ。



この道路沿いは景観がいいので、住宅が増える予感がする。

道路沿いには墓がいくつもある。海が見える景観のよいところには、墓が多い。山羊小屋もある。



景観が良いうえに、ゆったりとした楽しい散策コース

だ。

8. イノーなど

干潮の時、とくには大潮干潮の時の散策は、イノーに行くのが定番だ。海岸から沖に向かって数百メートル歩く。イノーの先端まで行くには、水濡れしてもいいスタイルをしなくてはならないので、私は途中までにとどめるだ。途中までなら、運動靴で十分OKだ。





写真はイノーからサチバルあたりを見たものだ。

このあたりまでいくと、美しい魚、シヤコ、ナマコ、海藻などと出会う。写真は、ナマコとクモヒトデ。クモヒトデは不気味な感じだが、触手を動かして食事中の光景がよく分かる。ナマコは乱獲のためか、減っている。



8月に大規模な海岸清掃があつて美しい海岸になったが、例年だと、2か月ぐらいでゴミが目立ってくる。今年は、北風中心の台風が10月にきたためか、ゴミがとても少ない。このままきれいであつてほしい。それに潮流のためか、ここ数年で海岸にたまる砂の量がすごい。海岸線が数メート



ル沖へと広がった感じさえする。

付近の農道の舗装が進む。私たちが住み始め



たころは、数本しか舗装されていなかったが、数年前の工事、そして今回の工事で、ほとんどの農道が舗装されるような感じだ。

右写真は、丘の中腹から見た南西方向の海岸。志堅原集落、その向こうの八重瀬町の港川などが見える。

このあたりは、イノーから丘まで、多様な散策コースを楽しめる。季節替わりが進むと、グスクロードあたりまで、コースを伸ばす。標高差150メートル近くの、山登りに近い往復があるので、気温が20度以下になって汗が減ると、楽しめる。その季節が待ち遠しい。

ジーハンタ 中山の4年に一回の行事

2014年9月24日



21日、私が住む字中山の最大の行事であるジーハンタ・スージが行われた。

字出身者も含めて、中山では最多の人々が集まる。中山は6つの門中とここ10～20年の期間に移住してきた数世帯で構成されているが、6つの門中の共同のしるしとして、かなり以前に始まったものとのこと。

開始は、字の祖とされる人の墓前に料理をささげて祈る。下左写真は料理。

その後、あいさつなどがあり、出し物が続く。

右写真は、旗頭

即興のかけあい踊。字の踊上手・余興上手が活躍



トーナチン

2014年6月5日

近所の畑で撮影。中山の畑のあちこちで見かける。奥武島のトーナチンが知られているが、奥武島には畑地が少ないので、中山の畑でも栽培



されている。中山の畑では、奥武島の人々が耕していることが結構ある。無論、中山の人自身が栽培することもある。

トーナチンは、



聞きなれない。ウェブで調べると、コーリャンとある。現在の日本ではほとんど栽培されていないようだが、中国やアフリカなどで栽培されているようだ。栄養価がとても高いとのこと。

知り合いの奥武島の人に聴くと、粉にしてムーチーに混ぜるとのこと。私も食べたことがあるだろうが、味は思い起こせない。

右写真が穂。左写真は、穂に袋をかけたもの。

奥武島ハーリー 2014年6月1日

我が家は、奥武島と直線距離にすると、数百メートルしかない。だから、ハーリーをベランダから見ることができる。しかも、実況中継の放送が、ガンガン響く。



ということで、奥武島まで散歩がてら、ハーリー見学に出かける。すると、ハーリー船のバックに我が家が見える。写真の背景に我が家が写る。

朝から午後3時過ぎまで、数十のレースが行われる。4チー



ムが一齐にスタートして、1往復半のレース。2回の方向転換が難しそうだ。

特に職域対抗は、激しいレースの連続だ。初めてチャレンジ

するチームから常連チームまで。今年の優勝は奥武島ハーリーチーム。地元だけあって当然なのかな。女性レースもある。クレイジーガールという多分アメリカ人だけのチームも見た。

中山豊年祭 2014年5月20日

18日午後、恒例の豊年祭（敬老祝い出生祝いも）。雨の中、公民館で。

諸報告・挨拶のあと、子ども・大人の出し物、そして与座ファミリーのショー。

いくつか





上手い。中学進学者と小学校入学者の入れ替わりで、メンバーがガラッと変わる。

3) 今回は、見慣れない若い顔がたくさん。出生祝いもあり、区外在住者の親子も参加したからだ。区内に住むじいちゃんばあちゃんが、孫たちに囲まれてうれしそう。

1) 敬老名簿が配られるが、私は、欄外第一号。いよいよ来年から名簿入りとなる。人口のほぼ3割が名簿掲載。みなさん元気に参加されている。

2) 子どもたちの出し物(写真)。今年は、例年以上に

共同作業 近所の宴会

2014年5月12日

4月おわりごろから5月にかけては、地元の行事が目白押しだ。毎年のことが多いが、今年だけのこともある。いくつか紹介しよう。

4月終わりは、恒例の字共同作業がある。数え年70歳未満が義務参加だから、私は今年が最終年になる。無論、高齢のかたのボランティア参加もあるが、それでも、参加者を見渡すと、私は、最年長の部類だ。

今年は、気候の関係か、それとも事前有志による作業があったためか、作業量が少なく、早めに終わった。それにしても、タマグスク近くの丘の上から海岸近くまでだから、とにかく広大だ。そして朝6時スタート、というのもすごい。

5月10日は、近所の6軒で宴会。70代から0歳までの、総数20名あまり。大雨なので、場所を半地下の広々としたところで。晴天であれば、芝生広場の予定だった。会場も持ち回りでやっている。

今回の最大特徴は、20代30代の若い親たちが、0歳から小学3年生までの子ども10人近くを連れて参加したことだ。いまどき、こんなに子どもたちが集まる場所は珍しいかもしれない。子どもたちは、常時、飛び回っている。若いお父さんが、その子どもたちと遊ぶのがうまいのに感心。子どもたちも、いつもの遊び仲間に大人が加わり、楽しそう。元気な声と笑いが絶えない。

写真は、準備中の会場から海方向を見る。左側は、百名伽藍や山の茶屋、そして字玉城の家々。右側は防風林。

この後の、地域の予定

18日 字中山の豊年祭



25日午前 地域対抗の卓球大会
午後 シュガーホール新人演奏会

岸由二「流域地図」の作り方 川から地球を考える」筑摩書房2013年を読む 2014年1月21日

書店店頭で興味をそそられたので、購入して読む。

著者は、「あとがき」で、次のように力説する。

「温暖化の危機にしろ、生物多様性の危機にしろ、基本的にはどれもこれも、生命圏の大地の凸凹、水の循環などを枠組みとして対応せざるをえない課題であることは、とくに難しい思索なしでも自明のことといえるだろう。

しかし、現実の暮らしや行政の実践領域では、自明でない。豪雨水害の解説が、いまだに行政区で語られるのが常識というのは、何よりの証拠といえる。生物多様性の危機に孤立的な里山概念で対応するのも、行政区で洪水を論じるのとおなじくらい頓珍漢なアプローチである。

そんな的外れ、頓珍漢が、なぜ常識とされ、いつまでも続くのか。

私の意見を言えば、それは、私たちの共有する世界イメージ（地図）の基本がデカルト座標の地図で構成され、微動もせず継続されているからだ。

洪水は行政区で起きるのではなく、流域という大地の凸凹で起きると、ある日鮮明に理解しても、暮らしのほとんどの領域は行政地図に仕切られており、流域への関心はまもなく行政地図の常識の海にのみこまれてしまうのだ。

地球温暖化・生物多様性の危機に、ありとあらゆる地域において有効に対処し、生命圏への文明の最適応を円滑にすすめるためには、この摩訶不思議な地図の文化の只中で、生きものたちがあふれ水の循環する凸凹大地でできているという新しい地球地図の文化を、育てていくほかないと、私は信じているのである。

文明の底を形成しているそんな地図の領域に、実のある大きな転換を引き起していくための、もっとも有効なツールが、流域地図、流域思考と、私は見極めているのである。

私たちの暮らす雨の降る生命圏は行政区によって区切られているのではなく、無数の流域の入れ子構造、入れ子地図でできている、という認識への広く大きな転換は、実は、ツールとしての地図の流行などではなく、地球で暮らす文明そのものの転換につながっていくのだと、私に考えているのである。」 P149-151

刺激的で、小学生のころからの地図好きな私は、強力に興味をそそられる。早速、本書で示されているサイトで、我が家周辺の地図を見てみるが、



水の流れや流域のことはよく分からない。

それでも、私が住む流域の「川」（と呼べるほどではないが、一応川ではあろう）のビンガーについて関心を持ち、しばし観察思考したくなった。もっともビンガーという名前は細かい地図でも登場せず、長年使われてきた地域の通称というものだろう。ビンガー流域については、改めて書きたいと思う。そして時間をかけてビンガー流域地図を作りたくなった。

前ページ写真は、我が家の敷地を通る水路（雨の時だけ水が流れる）がビンガー支流に流れ込む個所。水路がビンガー支流で、そこにかかる橋めいたものが、我が家に通じており、その横に我が敷地を通る水路から水が流れ落ちる個所がある。

「流域地図」への一步 ビンガー下流

2014年1月23日



21日の記事で紹介した、岸由二「流域地図」の作り方に触発されて、私が住むビンガー流域について書こう。今回は下流だ。

1) ビンガーは、源流から河口まで、長さは1キロあるかないかの短い川だ。

2) 河口（左写真）は、海岸の護岸の下をくぐったところにある。

雨が多い時は、海岸に水路ができ、

水がイノーに直接流れ込む。普段は水門を出たところが池状態になっている。水が地下に潜り込み、数~十数メートル先からしみ出てくるともある。最近、どこからか流れ着いてくる砂がたまり、流れが詰まった状態になることが多い。そのため、砂の除去作業がしばしば行われる。

3) 右写真は、河口から畑を200メートルほど上ったところを通る道路から写したものだ。331号線から横に折れて中山と玉城・新原を結ぶ道路だ。地域の生活道路でもあるが、レンタカーを含めて観光客の通行量が大変多い。

4) この道路の下をくぐったビンガーは、2本の流れが合流する（次ページ写真）。同じくらいの幅なので、どちらが本流でどちらが支流なのかは不明。多分名前があるだろうから、老人から聴かなくてはならないと思っているが、ここでは、東側をのぼるのをA、西側をBと呼んでおくことにする。





5) Bは、合流地点から100メートル余りは、先ほど書いた道路の側溝のような形で上る(右写真)。奥武島の嶺井門中の墓の前をとおり、21日の写真で紹介した我が敷地を通る水路出口を通り、しばらくして道路から離れ、上っていく。Aは、合流地点から30メートルほど、集落に通じる道に沿って上った後、集落の外側の森に吸い込まれるようにして上っていく。



豪雨の時、この個所が溢れて、住民を困らせている。

我が家も含めて中山第3班の集落は、この2本の流れが300メートルほどに上る間に、はさまれて立地している。



「流域地図」への一步 ビンガー中上流

2014年1月27日



2日の下流編に続くものだ。

6) Aは、国道331号線のバイパストンネル工事への通路となる仮設橋の下を通過して、田舎道の脇を登っていく。

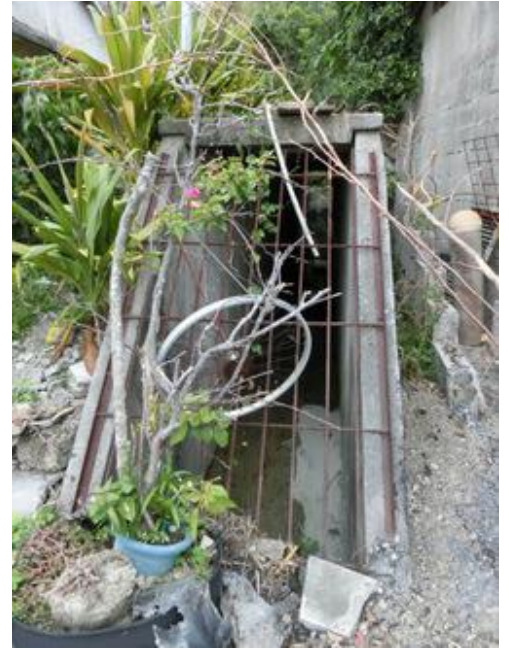




100メートルほど上ると、百名と富里を結ぶ旧道をくぐることになる。

旧道をくぐった後、上水道の配水施設の横をさらに上っていく。この後、どう上っていくかは、私にはまだわからない。

旧道をくぐる前に二本に分岐するようだが、前ページ下右は、その一方の写真。



7) Bは、現在の国道3

31号線をくぐる。左写真は、国道から下を写す。そして

集落内を上り、半地下水路になるが、右写真はその入り口

そして、現在工事中の国道331号線のバイパストンネル

入り口あたりの水路を上る。(左写真)

建設中の道路の下をくぐり、百名と富里を結ぶ旧道にいきつく。

その上は、私の未踏個所だ。

双方とも、「源流」がどこになるのかは、私はまだ知らない。森の中だし、おそらく地下水が表層水になる形だろう。

8) その上に、グスクロード・タマグスク・ゴルフ場がある。それらを含む台地に降った雨の一部が、ピンガーの

水になるのだろう。

7) 8) については、いずれ、このあたりに詳しい人に教えてもらい、探査したい、と思うが、「原生林」のようになっており、なかなか難しそうだ。

9) これらの水路を通る生き物の代表的なものは、アーマン(おかやどかり)だ。魚を見かけることもあるが、水が枯れることもあるので、魚には厳しい環境だ。

10) 大雨の時、2本の水路が溢れることがしばしばある。とくにAがそう。自宅内に水が流れ込み、困っている人もいる。また、国道バイパス工事だけでなく、それ以前から、工事に伴う変化によって、水が溢れることがあり、住民や農家から、工事関係者、役所、道路管理者へ改善要請が出されてきた。

急斜面であることに伴う労苦と言えるかもしれないが、水管理関係者の連携協力体制が上手くできていないことがあるかもしれない。本書がいうように「流域地図」的発想から、川と水と付き合うことがまだ上手く出来ていないのかも



しれない。

いつか私なりの「流域地図」を作成して、再論したい。

歴史を感じる中山の石獅子5体

2013年12月1日

11月24日の中山区民交流会のなかの1企画、中山拝所めぐりウォークラリーの際に撮影。私は、このうち4体は見たことがあるが、一体は初めて見る。

いずれも、かつては中山集落と外を結ぶ道の集落出入口にあったようだが、集落が全体として海岸方向へ移動したので、今では、集落内部にあたり、集落からかなり外れたりしたところにある。だが、以前の集落の位置の目印にもなる。いずれも、集落の外側に向けて置かれ、集落に入ろうとする魔ものや

災難から集落を守る役目があるとされる。

5体もそろって現存している集落は、他に



うか。珍しい例だろう。南部の石獅子を集めた冊子をどこかで見た記憶があるが、それにも中山のものが収録されていたと思うが、その冊子名などは思い出せない。

一体目は、今は、集落内部にあるが、かつては南方向への出入口だったろう。

二体目





は、西南方向を向いている。

三体目は、いまでは集落から外れた犬訓練所近くにあるが、西方向を向いている。私にとっては初対面だ。

四体目は、東に向いている。

五体目は、我が家すぐ近くにあり、南東方向だ。

いずれも、石がはがれたり擦れたり苔むしたりしており、歴史を感じる。

旧暦7月17日 後生（グソー）のウークイのウガン（御願）と獅子舞

2013年8月26日

23日夕方、字中山の主要な拝所でウガンをし、獅子舞が奉納された。字評議員も参加しようという呼びかけ



があったので、私も参加した。初参加だ。字中山の獅子を見たのも初めてだ。

字中山の元家当主や区長を中心にウガンをした後、



二人の若者が獅子に入って舞う。舞い方は素朴で、2~3回寝そべり跳び上がるぐらいのアレンジが加わる程度だ。途中、小学生もやってみたりした。

残念ながら、他の盛大な字の行事とは比べようがない。それでも継続しているから立派というべきなのだろう。

右下の写真は、字の中心拝所のジーハンタでのウガン。中右の写真は、もう一つの中心拝所のトゥン（殿）の前で舞う獅子。

5ヶ所を回った後、拝所前の庭で小さな「宴会」。いろいろと話に花が開く。その周りを、子どもたちが遊ぶ。じゃんけんで2組に分かれて、「肝試し会」をしている。懐かしい遊びだといって、30代の若者の話題になる。

知らないうちに、その場で一番の年長に私になっていた。





中山国 道トン ネル工 事見学

2013年
12月25
日



23日午前、工事を請け負っている会社の招待で、字中山の多数の人が見学する。200人余りの字人口の三分の一が集めた感じだった。

トンネルは、字のすぐ後で掘られており、半分ほど進んでいるとのことだ。地盤はクチャ層なのだが、クチャ

のなかでも硬い豊見城層と比べて、この土は新里層と呼ばれる軟らかいもので、掘るスピードはゆっくりで、一日1メートルだそうだ。掘削機械もでかい。

トンネル工事は、来年夏には終わりそうだが、国道工事自体は、まだまだ時間がかかりそうだ。



盛り上がる初の中山交流会 2012年11月26日



年末の間では飲み会シーズンということだが、毎年1~2回ぐらいの私。しかし、今年は飲み会が多い。24日は、卓球仲間の新築祝い。12月に入ると、何年ぶりか、ゼミ生との飲み会、合唱仲間との飲み会（合唱はしばし休憩中だが、飲み会はある。積立金が残っているから）、卓球の県民大会での南城市優勝の飲み会という具合だ。

25日には、中山交流会があった。5月の豊年祭以外には、区民が交流する大きな行事がない、ということで今回、初企画。



海岸清掃・集落センター周りの花づくりから始まって、懇親会=夕食兼飲み会、そして最後はカラオケ大会。オオウケばかりだった。

カラオケでは、青年たちがダンスパフォーマンス付きの唄。子どもたちもたくさんが歌う。70代も数人が登場。女性も男性も。ハイレベルのものから、歌ってくれるだけ



で幸せを感じる人まで。全部で20組50人ぐらいか。



カラオケに合わせて、踊る人もたくさん。

恵美子は、カラオケではなく、ソングボウルを使って、「花を咲かせよう」を歌う。オオウケだった。



料理も多種。

おでん

朝から黒糖づくり。上の写真の左下が黒糖。

その過程で、シッピンがつくられる。黒糖でできた水あめのようなもの。

これを割り箸に丸めて、舐める。かなりイケる。

わたあめ 子どもたちがたかって楽しむ

他にも焼き鳥とか。大盛況の会だった。



中山の綱引き

2012年8月12日

11日夜、恒例の中山の綱引き

100名近い老若男女。

見かけない子どもも多い。親の里帰りについてきた子どもたちのようだ。

中山で有名な盛り立て役者。なんと持参したフライパンを叩いて盛り上げている。（前ページ写真）

中山の夏の風物詩だ。隣の字玉城の綱引きの太鼓鐘も響いてくる。

中山の豊年祭 中山人口の三つの山 10代・50代・70代 2012年5月28日

27日、恒例の中山豊年祭・敬老祝・出生祝が開かれた。例年通り盛大であった。私の印象では、とくに子ども会と女性会の踊りがよかったので、写真を掲載しておこう。

ところで、配布された敬老祝対象者名簿に、昨年まであった私の名前は消えた。南城市が該当者を70歳以上に変更したことに伴って、中山も変更したためだ。老人から非老人にかわり、3年後にはまた老人になるというわけだ。

配布資料には、年代別人口も掲載されている。

それによると、10代28名、50代35名、70代34名という三つの山がある。谷は、20代15名30代11名だ。60代は50代と70代に挟まれて、28名と少なめだが、谷というほどでもない。多少少ないのは、戦争末期から戦争直後での人口減を反映しているのだろう。

20代30代の谷は、仕事などのために、字外に出る人がおおいのだろう。他府県に出る人は、かつてほど多くはないようだ。若い人が住むことが多いアパートが字内にないのが、一つの理由のように思う。行事には顔を出す人が結構いる。40代50代ともなると、中山に住居を得て、Uターンする人が多いように感じる。



在学者が42名と多いし、兄弟姉妹が3人以上の子どもたちが結構いそうだ。子どもたちが、字の雰囲気元気にしてくれる。公民館内での豊年祭の時も、外での子どもたちの元気あふれる声が響いてくる。

近所どうしのバーベキュー会 山の茶屋—天空の茶屋の散策 2012年5月6日

連休後半。いろいろと楽しみがあるが、すべて近所でまかなえるのが、ここの良さ。いくつか紹介しよう。

4日夜。隣の宮平稔さん宅で、ご近所のバーベキュー会。

ジャスミンがとても美しく、超たくさん咲き誇る。写真は翌日朝撮影したもの。

この芝生のうえで、バーベキュー

近所の6家族10数名が集まる。子ども・赤ちゃんから高齢者まで。女性がやや多い。



ユンタクの花開く。30～40年前、中山のイノーでも、タコがたくさんとれた話。今の10倍以上のようだ。

赤ちゃんの命名の話。

三線で唄も。子どもの踊り・歌も。

この会を、流れる小川の名にちなんでビンガー会とよんでいるが、久しぶりの会だ。元気の中心の方がお休みなので、いつもは静か目の人も張り切ってユンタク。

大騒ぎを、赤瓦の上から眺めるシーサー。これも翌朝、撮影

会には犬も参加。ゴマちゃん。実は「おばあちゃん」犬だ。だっこする私。幸せを実感する私。



5日午後、天空の茶屋と山の茶屋を結ぶ大庭園を散策。
写真は、その中央に立つウスク（あこう）だ。



さとうきび収穫光景 2012年2月23日

今年のサトウキビは、近年にない不作だという。いつもは12月には始まる収穫作業も、今年は年明けからだ。そして、2月下旬に入った時点で、我が家から見渡せるサトウキビ畑は、9割も収穫完了だ。
加えて、TPPの影響が出てくると、どうなるのだろう。
近隣の収穫期の写真を並べてみた。



ここにきて7、8年目になるが、ハーベスター



による収穫が増加している印象だ。収穫に人手をかけることが難しくなったのだろうか、いろいろな要因があるのだろう。

サトウキビ収穫後は、畑の見通しがよくなるが、ザワワの音が聞かれなくなる。

写真1枚目は、ハーベスター作業 2月中旬
我が家のベランダから撮影
2枚目は、人手作業風景 2月後半

カジマヤー祝い 2011年10月10日



昨日、近所の方がカジマヤー祝いということで、お祝いをいただいた。写真の他に「おり」をいただいた。カジマヤーなので、風車も添えられている。

お会いしたことがないので、中山の敬老者名簿をみると、字の最高齢者だ。

二番目のかたは、今も畑仕事をなさって、時々野菜をいただく隣のおばあちゃんだ。

名簿をみると、中山には90代が5名おられ、これからもカジマヤーを迎えられる方が、毎年のようにおられる。

大雨が玉城海岸に大河を作る

2011年10月4日



冠水した道路を通過して、海岸に出てみると、大量の水が、排水口から海に出る個所で、大河をつくっている。サチバルあたりだ。



大雨で海岸沿い農道と畑が冠水

2011年10月4日

雨が一時的に収まった時の散歩で出会う。



農家の方から、大雨の時の冠水で困っているという話を聞いてはいたが、実際に見るのは初めて。役所の方だと思いが、調べに来ておられた。ゴルフ場などの高台の水が一気にくると、排水ができなくなるのだろう。

中山の綱引き

2011年7月25日



24日は、綱引き。何百年も続いてきた行事だろう。隣の字玉城もしている。25日にやるところもある。旧玉城村は、集落単位でしている。以前は、国道でやったそうだ。

稲作をしていた時代、数十年前は、広場で稲藁でつくっていたとのこと。今は穏やかに楽しくやっているが、かつては東西に分かれて真剣勝負だったとのこと。負けると、先輩から『鉄拳制裁』まであったらしい。

今年は、子どもが多い。集落の子どもの数よりも多い感じ。夏休みなので、集落外の人たちも来ている。子どもたちが、4本の高い灯籠を掲げている。「チリンドゥーロー」というのだそうだ。

開始時刻には、土砂降りの雨だったが、しばらくして収まり、無事終了。

国道工事進行中 2011年4月24日

このごろ、工事機械の音がうるさい。

国道331号線の中山地内のバイパス工事が始まったからだ。

最近開通した奥武入り口から中山までの個所をさらに延長して、中山の裏手を一部トンネルにしてまっすぐ伸ばす工事だ。

写真の上の方に、工事現場が写っている。写真の一番高いところが、タマグスク。



中山集落共同作業（アラバタ）——世間話も楽しい 2011年4月24日

今朝6時から、恒例の春の共同作業。グスクロードから海岸までの道沿いの清掃作業だ。

写真は休憩時間

作業しながら、いろいろな会話がはずむ。

私のウチナーグチ学習は、まだ成果は出ない。ウチナーグチになると、ほぼついていけない。

会話は世間話を中心

- ・今年の寒さは、農作物の生育に半月以上の遅れ
- ・大震災で、沖縄産作物の価格は暴落。

秋になると、事態はかわり、不足状態になるだろうが、そのころは沖縄からの出荷は少ない時期。

- ・孫は、〇人になった。
- ・〇〇が、このあたりに家を建てるといいと思うが。

- ・今日は南城市の字対抗バレー大会

5月15日は卓球大会

- ・通り沿いの畑の作物の出来具合の話

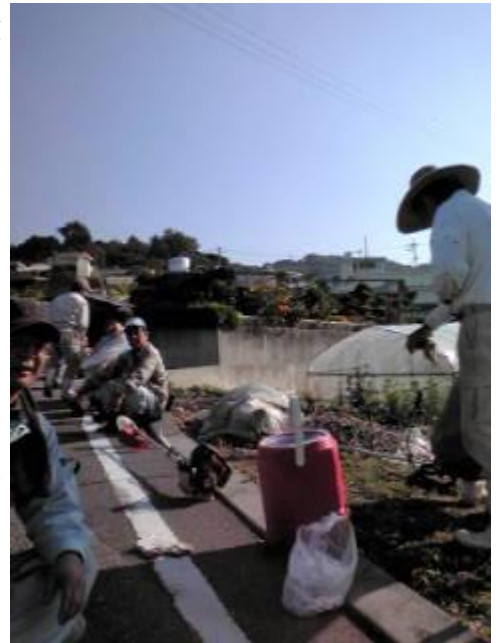
畑の隅のあちこちからでてくるイーチョーバー（ういきょう）の話

- ・今年のマンゴーは、花がたくさん咲いている。
- ・このあたりは、かつて馬場だった。闘牛場があったのはここだ。

私も、参加者の中では、上から3, 4番目で、高齢者の部類。

2時間ぐらいうると、体力不足が歴然としてくる。

ふと、こんな共同作業は、何百年続いてきたのだろうか、と思う。



水害対策と中山国道（331）工事 2011年3月7日

6日夜、字中山の常会に、国道事務所と南城市担当者が来られて、昨年の説明会で、字側から強く出された水害対策についての回答の説明がなされた。

口頭説明をもとに、この記事は書いているのでおおまかになるが、ざっとこんな説明だ。流域の最大水量は時間当たり80ミリの降雨で計算して、4.7トンになるので、国道の下を通す排水管は、傾斜が18度あることを踏まえて、700ミリにする。それは、南城市が敷設している、その上部の排水管にも対応している。並行することになる現国道の下の排水管は150ミリあるが、それはそのままになる。

住民側からは、現在の南城市の排水管では、すでに2回も溢れ、下流に水だけでなく、土砂も流れてしまい、大変なことになった。建設する国道の下の排水管が700ミリでは、再び溢れだす危険が高い。もっと大きくしてほしい、との声があつた。その間、たくさんのやりとりがあつて、最後に、国道事務所が、大きくするかどうか検討するという事になった。

ここからは私の意見。80ミリという雨量は、糸数にある観測システムのデータが使われている。しかし、傾斜地にあって強い風が直接吹き付ける中山での豪雨の際は、局地的に、それよりさらに多い雨量になることがある。実際、近年では2回そういうことがあって、溢れた。したがって、排水管を大きくすることは不可欠だろう。

国道建設は全国基準で行われ、局地的要因が無視される傾向がある。後で災害が起こっても、基準にのっとって工事をおこなった、という責任逃れが行われたりする。

地域の実際に合わせて、建設は行われるべきだと、思う。

加えて、近年の連続的な異常気象のもとでは、80ミリを超す雨が局地的に降る事は、以前より、さらに高い頻度で起こるだろう。

今、南城市は、津波対策を含めてハザードマップづくりなど、災害対策が進行中だ。地域の現実と住民体験にそくした対策、そして、より厳しい条件を前提にした対策が必要なように思う。後手後手に回らないために。

この国道敷設の準備工事は、すでに始まっているようだ。中山地内のうねりくねった国道は、一部トンネルだが、比較的まっすぐな道になるようだ。この道ができると、どんな変化が起きるのだろうか。

2009年3月までの中山（近隣の話）記事

2011年2月23日

このブログがスタートしたての2007年3月から2009年3月までの中山（近隣の話）記事は、おおまかにいって、3つに分類できる。

1) 字中山の会合・行事・共同作業・子ども会などだ。行事には豊年祭、綱引きなどがある。

2) 字中山の風景など 畑の農作業風景、海岸風景、石シーサー、ガルガー滝などだ。

ガルガー滝は、国道バイパス工事で景観が変わったはずだが、工事終了後はまだ見に行っていない。

3) 近隣のつきあい 野菜をいただいたとか、近隣のお食事会や飲み会光景、海岸清掃、高齢者カップルとかだ。

近年、各地で字誌の発刊が続いている。相当な財政がないとできないので、中山では難しいだろう。しかし、なんらかの形で、中山の記録が残るようになることを期待したい。

数百年以上前の、中山創設時期の話。イノーや美田の話なども 昔話と「遺跡」も

戦前 移民の話もあるだろう

戦争期

戦後の復興 農業など

移民も含めて県内外への移動の話

中山活躍の話 子どもたち 青年達 壮年たち 高齢者たち

現在と将来への期待

これらで、文字になって残されているものは、残念ながら少ない。

かかし 本物の人間と間違えた 2011年1月23日

このかかしは先週の散歩の時、本物の人間に間違えた。なかなかの傑作だと思う。



中山の山道 国道建設予定地 2011年1月2日

中山の山道。11月末の共同作業後で、きれいになっている。



この道を使うと。我が家から徒歩でまっすぐタマグスクに行ける。15～20分というところだ。車だと5分だが、注意運転が必要。

途中に国道331の工事用地がある。先日開通したばかりの箇所をさらに伸ばして、中山



を地下トンネルでくぐる。現在、水害対策などで、字と国・市と調整中と聞く。

写真は、その用地だ。どういう風に工事がなされるかは知らない。

国道331、中山西から奥武入り口までの直線、開通

2010年12月13日

昨日開通式。私は今日初通行

費用対効果問題で中止一再開があった日く付き区間

地元住民で使う人は少ない

むしろ交差点が増えて面倒になった感じ

この区間が延びて中山集落内をトンネルで通る計画は、以前に書いた





今朝の海岸ごみ拾い

2010年10月30日

二人なのでひろい切れない
意外に燃えないごみが多い
台風が北風だったので陸からのごみが多い
大雨で水路出口付近の砂の堆積が広がる

ご近所と夕食会

2010年10月13日

恵美子が、朝、思い出したらしく、これを口実に、我が家のベランダで、ご近所の夕食会をしようと、提案。とんとん拍子に話がすすんで、実現。例によって、持ちよりで楽しい食事。話があっちこっちしながら、ユンタクに花開く。いろんな自慢話、困り話が盛りだくさん。フィンランド話もたくさんした。いろいろな旅行話も。

我が家ベランダの夕食会は何年かぶりだ。
持ち寄り式は料理文化を豊かにするから、とてもよい。

昨晩は、雲がほとんどなく、4日月ぐらいを見ながら、時間がたつとさそり座をみながら。
秋風はなかなかいい。まだガジャンが活躍しているのがやや困るが。これも風情だ。

中山国道工事物語

2010年9月28日~10月1日

27日夜、中山集落センターで、国道事務所による国道工事の説明会があった。私は、次の用件もあり、はじめのうちだけ出た。

最初から白熱していた。

ことのはじめは20年前ということだ。だから、ここに住んで6年しかたたない私には知らないことが多い。わかったこといくつかを書こう。

国道331号線が、字堀川から志堅原に入るあたりから、字玉城に入るあたりまでの1.8キロメートル間の「中山改良」工事ということだ。

この区間の現在は、急カーブの連続だ。説明資料によると、この箇所には、「事故多発箇所300件以上」、または「事故多発箇所100件以上」の色が塗られている。そして、「平面及び縦断線形の改良による交通安全の確保により幹線道路としての機能向上を目的」とすると書かれている。

そして、「規格」は、3種2級（60km/h）、幅員12.0m（2車線）とある。

ここで、60kmというのは、かえって交通事故が増えるのではないかと私は懸念する。高齢者比率が高い、この地域では、最近話題になる高齢者死亡事故の多さのなかで、どうなのだろうか。

さて、説明資料は、住民説明向けに作られたものではなさそうだ。タイトルは、1枚目が「一般国道331号 中山改良」で、2枚目が「中山改良の事業見直し検討（案）」で、2枚目の見出しに、「[事業費見直しによる費用] 現事業費：85億円 →約3億円のコスト縮減→事業の見直し後：82億円」とある。おそらく、行政関係内部で使用する資料の転用だろう。

住民にたいする説明会だから、住民向けの資料を作成するのが当たり前だと思うが。

資料は、「事業費見直し箇所」を中心に作成されている。

西端の志堅原あたりの第一工区は「取り止め」

中山内の第3工区の「中山トンネル区間」は、「トンネル断面の縮小」とある。

同じく中山内の第3工区の「片側歩道区間」は、「歩道とりやめ」とある。400万円の「コスト縮減」だろう。「歩道とりやめ」が、目的として書かれている「交通安全の確保」になるのだろうか。理解不能だ。

そして、工事進行中の第2工区は、22年度中に供用予定（2/2）とある。口頭では、奥武島の橋工事の完成と連動させ、もう少し早まるとのことであった。

今回の中心焦点は、中山集落内を通る第3工区である。現在の状況は、「用地買収促進」であり、「今後の予定」としては、平成22年度には「3工区の工事着手」、平成23年度には「3工区の工事促進」と書かれてある。

参加者の大きな疑問は、工事に伴う水対策であった。たくさんの人が話題に出したが、説明者は、「南城市などとも相談し、対策を考えて行きます」というものだった。それに参加者から激しい疑問が出された。

過去の経緯を知らない私には、中山地区での洪水問題が最近も重大課題になっている事は知ってはいたが、国道工事との関連はよくつかめなかった。

しかし、中山に生まれ育った人たちは、この問題が深刻であることをよく知っている。ある方の丁寧な経緯説明で、私もよく理解できた。私の理解範囲で書くと、こうだ。

※ 聞いたことをもとにして書いたもので、細部については自信がない。直接、関係者にお確かめください。

現在のゴルフ場など、中山の北側高台に大雨が降った際、かつては、中山だけでなく、富里、玉城を含む各字に分散して、水が流れていったため、洪水になるようなことはなかった。たとえば、西側の水は、ガルガーの方へと流れて行った。このブログでも紹介した、途中で滝になる川だ。

しかし、グスクロードができてから事態は変化した。舗装道路の両端が高く盛り上げられたため、水がまとまって、中山中心をとおる川に集中し、洪水が発生するようになった。

後追い対策で、中山の中心をとおる川の整備が行われた。

さらに、中山上部の農道整備工事が、それを加重した。その工事着手前に、当時の村長や施行業者に中山字民は問うた。グスクロードができて洪水が発生したのだが、今回の工事は、また新たな洪水を引き起こす可能性が高い。きちんとその対策工事をして、農道工事をすべきだと。

その問いに対して、すでに農道工事は施行段階にあるので、ということで水問題対処なしに工事は行われた。その後、やはり洪水は起きた。そして、後追い工事が行われた。

今回の国道工事も、三度目の洪水問題を引き起こす可能性は極めて高い。その対策なしの、工事説明はおかしいのではないかと。

こうした問いだ。実際、今回の工事がかかわる川は、すでに洪水問題を引き起こしている。だから、「今後対処します」では、遅いのだ。

こうした字民側の説明は、大変道理に満ちたものだ。

ここで、私は所用のため、中座したので、その後の事はわからない。何か情報を得たら、またお知らせしよう。

もう一つ、解決しなければならない問題がある。それは予定国道が、字の聖地で、最大重要行事が行われるジーハンタの下をトンネルで通ることである。だから、字の行事を継続できるかどうか微妙なのである。行えるとしても、そこに出入りするごとに、国道の管理事務所の許可が必要になるということである。

これについては、国道事務所側は何か案を用意しているようではあったが、私は聞かずに中座した。

こうした国や自治体との難問の交渉に出会う体験は、私は初めてだ。また、水問題は、我が家もかかわってくる。今後も注意深くのぞんでいきたい

拝所を包み込む大木…中山ジーハンタ

201

0年9月26日

来週日曜日は、4年に一度の字あげ
でのウガン

今日は大作業 左写真右側は区長



巨木、岩を包み込み、割る

2010年9月26日

上の記事の巨木は、拝所の上の岩
を「制覇」してしまっている。(右



写真)

台風の時、岩もろとも落ちるのではないか、との心配の声。
中山には、こうした岩、大木が多い。

今朝の海岸清掃は、釣り人ばかりで、最低の参加者数

2010年9月25日

こんなこともある

写真手前の長い影は、私自身。季節が変わってきている。



でっかいバナナ…玉城焼で いただく 2010年8月18日

一本が熟す。新鮮な味。大きいけど、三尺バナナと変わらず美味しい

捨て犬・捨て猫に困る近隣

2010年8月7日

隣人の男性二人が、捨て犬を追い払うのに苦勞している。白い中型犬だという。私は気付かなかったが、恵美子を見たことがあるという。その話を聞いた後、私は黒い捨て犬を見た。

捨て犬があちこち歩くので、それを見た飼い犬が吠える。夜中がひどい、とのことだ。

最近は見かけないが、捨て猫も多い。特に海岸の防風林あたりは多い。赤ちゃんをとまなう「家族猫」が多い。海岸あたりで子猫に付きまといわれて困ったこともある。

おそらく、遠くから来て捨てていくのだろう。それへの対応に地元の人が困っていることを知らずに捨てていくのだろう。拾われて飼われることは滅多にない。

ヤンバルでは、捨て猫が保護動物を追いやっている報道が行われているが、このあたりでも迷惑千万である。飼い主は、最後まで見届けて欲しいものだ。